

第10回ハーフビルド創作教室

薪ストーブ廻り造作講座



2013年3月24日

ハーフビルドホーム那須ショールーム

＜注＞この資料は薪ストーブ廻り炉台をハーフビルドで自作する建て主さんに、炉台の種類、デザインと素材、作り方について講義するために(株)ハーフビルドホームが作成しました。よって当資を許可なく転載複写することを禁じます。また当資料には、薪ストーブ関連書籍、住宅書籍、薪ストーブメーカーカタログからスキャニングした画像を多く含んでいますが、あくまで炉台について勉強するために内部教材として作成したものであって、他人の著作権を悪用して当社の営業目的に使用する意図はありません。



ハーフビルド施工例① 澤口邸・那須塩原市 2011年

- 河原の石をモルタルで接着して積み上げた背面壁
- 長いビスをアンカーにしては背面壁構造材とモルタル石積みを固定
- 床は大谷石を弾性接着剤で敷き並べた(目地無し)



ハーフビルド施工例② 長嶋邸・宇都宮市 2011年

- タイル状に加工された大谷石(厚20mm)を使用、目地無し
- 弾性接着剤で張り付け
- 背面壁の下地にはALCボード(ヘーベルパワーボード)厚37mm



ハーフビルド施工例③ 小向邸・宇都宮市 2012年

- 床、背面壁ともレンガ(厚60mm)を使用
- モルタルで接着、目地もモルタルで

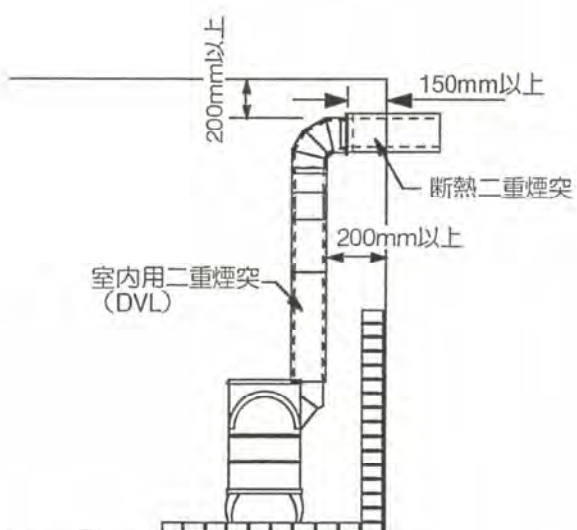
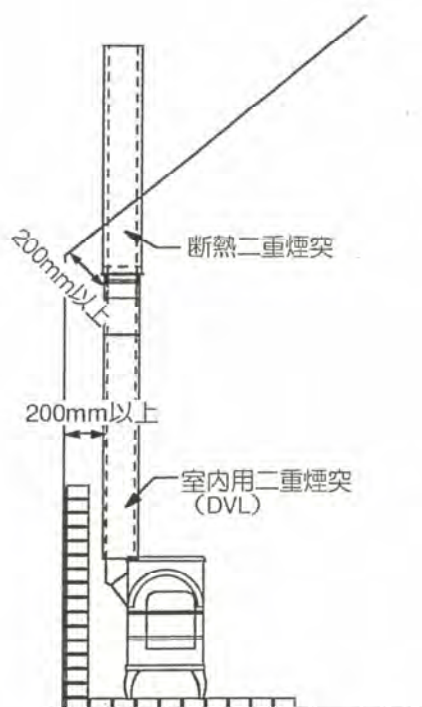
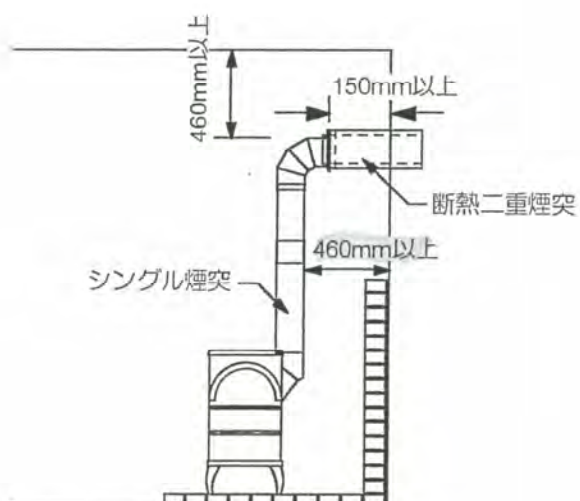
特集 「炉台」のすべて

炉台を知るための Q&A
薪ストーブ&暖炉のレイアウト実例集 30



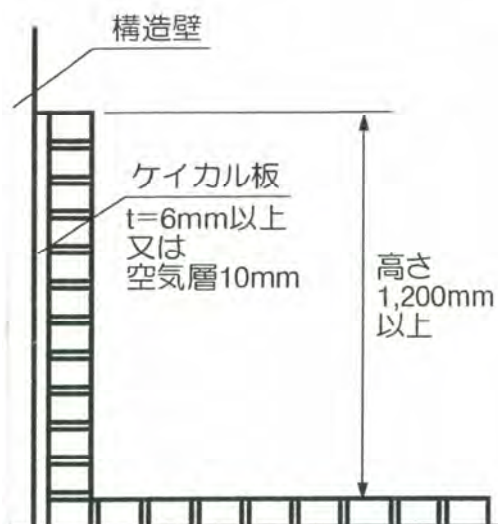
室内煙突のクリアランスの最小限度

下記の安全基準が満たされるように取り付けを行なってください。

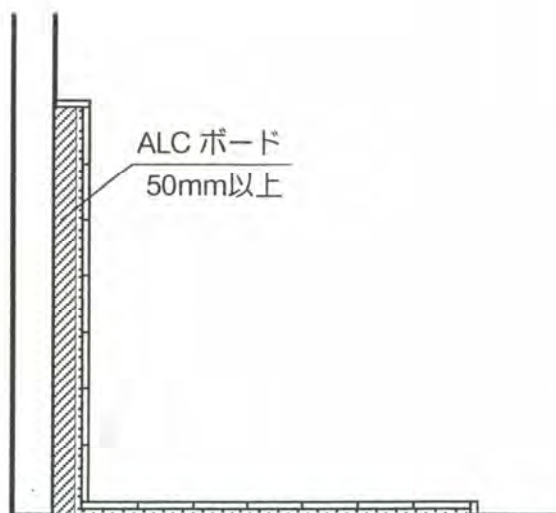


ストーブの設置について 2

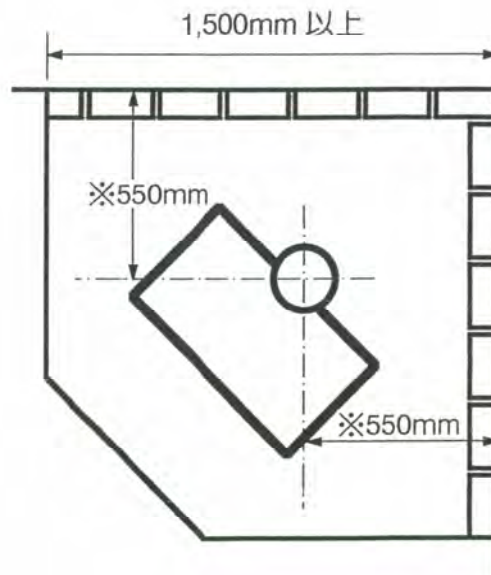
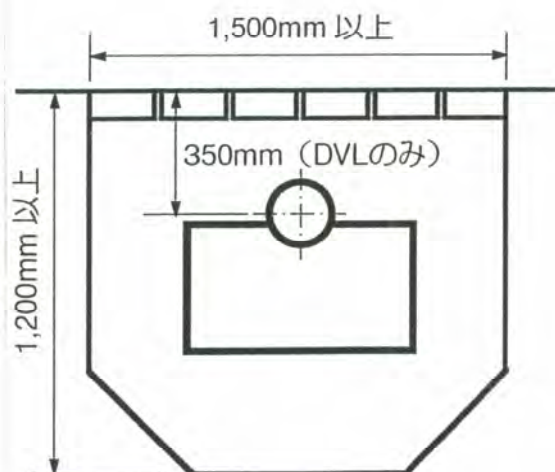
耐熱壁は下記を基準としてください。



レンガ積みの場合



タイル・石貼りの場合



※ 500mm : FA225 FA224A FA405
550mm : FA265 FA455
600mm : FA285

Q

炉台ってどんなもの？

— 炉台の役割、その基本 —

炉台に求められる 4つの役割とは？

石やレンガでつくった薪ストーブまわりの壁や床、これが炉台。ではどうして炉台が必要なんだろう？ 日本ファイヤーライフグループ代表の佐藤賢二さんに、炉台について教わった。

「炉台にはいくつかの役割があります。まず、遮熱。ストーブから発せられる輻射熱から壁を守るのが目的。コンクリート打ちっばなしなど、燃えない壁の家では必要ありませんが、それでもクロスや板を貼ることも多く、ほとんどの家に必要になります」

これは理解していた人も多いはず。次に、蓄熱体としての役割。炉台自体に熱を溜めて、その暖かさも得るというのだ。とくに日本の木造建築は熱を壁などに溜めにくい構造なので、ここで炉台が役に立つというわけ。

インテリア性も大切だ。炉台を含めて薪ストーブは存在感があるので、部屋の印象を左右することになる。

「さらに、耐荷重という役割があります。四本脚のストーブだったら、床に対して4点の荷重がかかります。その脚が必ずしも床下の骨組みの上にのるとは限らない。炉床で面をつくってやることで、床に対しての荷重は面で伝わり、床への負担が軽減されます」

炉台の構造と役割

●素材

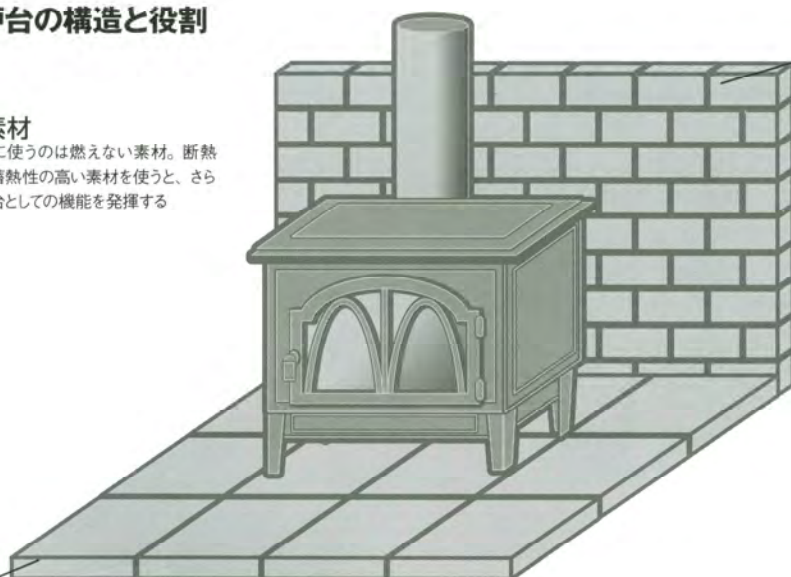
炉台に使うのは燃えない素材。断熱性や蓄熱性の高い素材を使うと、さらに炉台としての機能を発揮する

●炉壁

ストーブ背面や側面、部屋の壁のある部分に立てるのが炉壁。可燃性の壁を熱から守るのが、そのおもな役割

●サイズ

薪ストーブの大きさ、熱量に合わせて炉台のサイズはさまざま。さらに使いやすさも考慮したサイズ設定が必要になる



床

床面の部分。熱や汚れが守るだけでなく、ストーブを点から面に散らすというある

A

インテリア性だけでなく、
炉台には、重要な役割があります

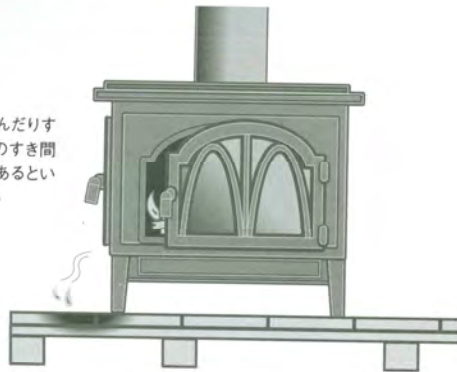
■ 炉台がないとどうなる？

最も恐いのが「低温炭化」。発火温度以下の温度でも、長い間熱にさらされることで壁が炭化してくる現象で、壁内部の見えないところで起こりやすいので非常に危険。床は炭化の危険は低いが、燃えた薪や火の粉で焦げたり、最悪の場合、燃えるケースもあり得る。炉台は、それらの事故を防ぐために大切な存在だ。



長時間、ある程度の高温にさらされていると木材は、発火点以下でも炭化が進む。炭化が進むと発火点が下がり、ストーブの温度でも発火してしまう恐れがある

薪が崩れ出たり火の粉が飛んだりする危険もある。火の粉が床のすき間に入って中で燃えたケースもあるというから、床もしっかり守りたい



■ 炉台はどんなときに？

炉台は、どんな場合でも絶対に必要というわけではない。まずコンクリート壁や土間の床、ストーブを置く部分が燃えない素材の部分（構造部も含む）では不要だし、ストーブ本が熱くならないタイプでも設けないことがある。また壁から一定の距離輻射式で1m程度を確保できる場合にも炉台は必要ない。

対流式のストーブは、輻射式に比べると周囲が熱くなりにくいので、大きな距離を取らなくても炉壁を設けてよい場合もある



土間の床や、床下までベタ基礎が立ち上がっている（床下に木材がない）床なら炉床は不要



材料費は種類によりさまざまだが、タイルに比べると天然石の炉台はやはり高価



普通レンガなら材料費は高くはないが、積み上げる工事に手間がかかるので工事費は意外に高い



30度角の一般的なサイズは工事手間が少なく、材料費も手ごろなタイルの炉台

■ 炉台の価格

炉台工事に含まれるのは、おもに、①材料費、②職人の人件費、③諸経費。使う材料の種類、新築かリフォームか、だれがどんな工事をするかで価格は大きく変わってくる。たとえば新築工事なら、その他の工事と合わせて炉台工事ができるので、人件費が節約できるし、レンガ積みは意外と手間も時間もかかり、タイルの炉台工事に比べ、人件費は高くなる。

■ 炉台の注文先

ストーブはストーブショップで販売しているが、炉台はだれに注文してだれがつくるのか？ たとえば新築住宅なら、設計の担当者が設計し、工事はショップまたは家の担当会社、どちらかが担当することが多い。工事の流れによっても変わるので一概にはいえないが、いずれの場合も、きちんとストーブに詳しいショップ

炉台をつくるポイント（新築の

1. だれがつくるかを決める
炉台をつくるのは、①建築担当工・職人、②ストーブショップ、分でセルフビルド、の3つの選択がある。①、②は、工事の流れに関わることで、家を担当会社、ストーブショップと相談がら決めよう。炉台は、意外にブルな構造なのでセルフビルドに可能だ。
2. どんな形にするか？
「使いやすいと安全」。炉台には必須。だれが設計するにせよ、カーの推奨するサイズを守るやはり専門家であるストーブショップに相談するのが間違いないだ。
3. 設置工事
内装工事後半、材料を運び込み地く仕上げの工事。現場によつて入るタイミングは異なる。ヤビルドの場合も家の工事担当とジュールの確認を行っておくこと

Q どんな炉台にするか？

— 安全で使いやすい形とは —

ストーブ機種に合わせた 安全第一の設計を！

炉台の形状には、炉壁の低温炭化を防ぐ、適切な設計が必要になる。

「適切な炉台のサイズというのは、ストーブによって異なります。そこでメーカーでは、ストーブごとに可燃物との距離を提示しているので、それを守ることが大前提です」

炉壁には断熱の対策として、空気層を設けることが望ましい。たとえ炉壁を設けても、それが木の壁に密着している場合は、炉壁を通して、やはり熱が伝わってしまう。

「熱が伝わるのには、輻射、対流、伝導の3種類の経路があります。その中で、最も熱が伝わりやすいのが「伝導」。それを遮断するために、空気層はとても大事。当社では通常、不燃下地と部屋の壁との間に25mm以上の空気層を設けています」

空気の熱伝導率はとても低く、炉壁表面で100℃ほどになる伝導による熱は、空気層を設けることで安全な温度にまで下がるのだという。

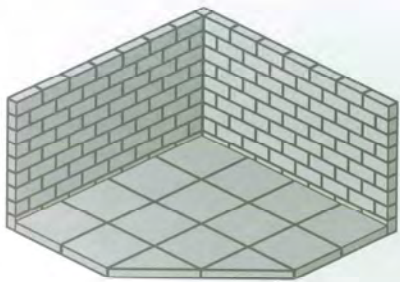
もう一点必要なのが、使いやすさ。

「2面の炉台で考えると、幅1間（約1800mm）×奥行きはストーブ+460mmが使いやすい理想的なサイズ。新築時に薪ストーブの設置が決まっていれば、設計段階から炉台を含めた計

炉台の基本パターン

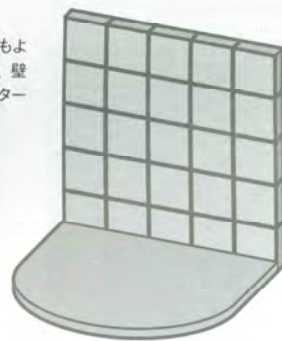
3面パターン

1からしても、部屋の角に設置ケースは多く、そのときには2壁+床の3面パターンのになる。ポピュラーな形



● 2面パターン

スペースをとらず、輻射熱の効率もよい壁際への設置。この場合には、壁に接した背面と床のみの2面パターンの炉台となる



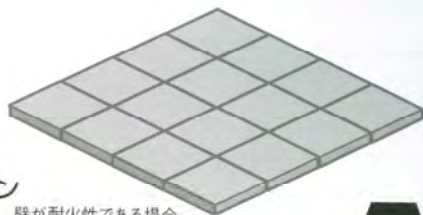
● 4面パターン

部屋の一部にストーブコーナーを設けたり、壁の一部をくぼませて設置するような場合に用いる。ストーブの四方を囲む形状の炉台



1面パターン

距離が保てる、壁が耐火性である場合は、床の汚れや焦げを防止するために床1面パターン炉台とするケースもある



A

安全を確保しながら、使いやすく、
インテリアとしても優れた炉台を目指そう

■天然石

昔から蔵の壁に使われていた耐火性の高い大谷石や、大理石、御影石など、天然素材ならではの深みのある仕上がり最大の魅力。御影石はあまり熱に強くないので、使用の際はストーブとの相性をチェックしておこう。



本物ならではの味わいが魅力の天然石。色みや柄がひとつひとつ違うので、世界でひとつの炉台づくりができる



大谷石。昔から蔵の壁に使われる耐火性のある素材。空気を多く含むので蓄熱性もあり、軽く扱いやすい



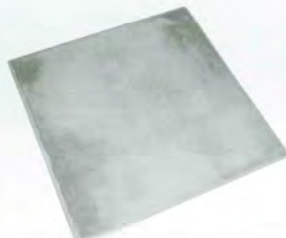
天然石の魅力を一番味わたる割り石。施工の手間はかかるが世界にひとつの炉台をつくることのできる



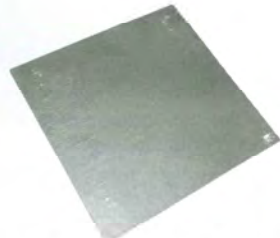
大理石を並べてパネルにした商品もある。ひとつひとつ積み手間がなく、天然石の割に施工費が少なくすむ

■タイル

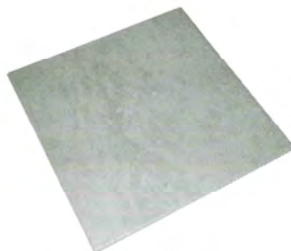
石目調、テラコッタタイル、柄入りタイルなど、色、柄、サイズが豊富、安定していて扱いやすい最近イチ押しの素材。同じ柄のものを格子に貼るだけでなく、いくつかのサイズ形を組み合わせ、炉台全体に模様をつくるのもおもしろい。



焼きむらがある味わいのある雰囲気のテラコッタタイル。レンガに近い素朴な仕上がりになる



黒い石目調のタイル。黒を使うとモダンな仕上がりになる。色付きのストーブと組み合わせたい



色が濃いめのテラコッタタイル。30 cm 角が一般的だが、20cm 程度の小さめサイズも人気がある。斜め格子に張るのもいい雰囲気に仕上がる



ベージュとグレーのタイルを組み合わせ、モザイク模様にした炉台。レンガにはない仕上がりになる

■擬石

セメントなどを主原料に、天然石やレンガをかたどってパネル状にした擬石は、軽量で扱いやすく、住宅の内外装だけでなく、炉台にもよく使われる。パターン、カラーの豊富さも特徴のひとつ。



ランダムな手割り風が自然な風合いの「メルス・ストーン/ニューブーケット」(写真提供/アドヴァン)



ランダムな形状で、自然な雰囲気の「ニューブーケット」(写真提供/アドヴァン)

■レンガ

炉台の素材としては王道的存在。赤レンガのほか、ブラウンやグレー、古びた風合いのアンティークレンガなどの種類があり、積み方にもバリエーションがある。複雑な積み方になると、施工費がアップすることも覚えておきたい。



普通レンガ。カラーバリエーションがあり、色が薄めのブラウン系などは人気のカラー



古びた風合いが素敵なアンティークレンガ。数十年前の本物のほか、アンティーク加工を施したものもある

■パネル系の炉台

パネル式は、床の上に敷くだけで完成するので施工の手間がないのが大きな特徴。ヨーロッパ製のモダンなストーブには、鉄板やガラス板のシンプルなものも似合う。対流式のストーブでは用いている人も多い。またレンガ調、石目調のパネルもある。



難燃性のウールラグは、炉台の前に敷いて、床を広くカバーできる。色・柄も素敵なので、取り入れたいアイテムのひとつ



シンプルな仕上がりになるモダ



鉄板。ストーブメーカーで扱

Q

どんなデザインがあるか？

— インテリアとしての炉台 —



ツヤのある大きめの正方形タイルを使った例。五角形の床は、正方形を並べずに、カットしたタイルを組み合わせているのがポイント。白いタイルと黒いストーブのコントラストが、シンプルでモダンな仕上がり



部屋のくぼみをストープコーナーにしたコの字型炉台は、床も壁も赤レンガを使用。壁と床のレンガの種類と目地の色、仕上げ方を変えている。どちらも小口積んだときの側面は薄いタイルレンガを貼って仕上げています



壁、床ともに大谷石を使用。壁の高さが天井近くまであっても、シンプルな石なのですっきり仕上がった。床は上面をフローリングと同じ高さにしたバリアフリー仕様。使いやすく、部屋との一体感も生まれた



奥行きをたっぷりとしたタイル製の炉台は、壁は白、床は黒を組み合わせ。壁は天井いっぱいの高さに、床はちよつと変わった大きな七角形。バリアフリーにすっきり、使いやすく掃除もしやすいタイプ



レンガの壁とテラコッタ調タイルの床のカントリーな仕上がり。壁に使ったレンガは、何色もの濃淡をバランスよく組み合わせて個性的に。白い壁との相性もよい。ストープの左右、奥行きとも、余裕をもったサイズにした



ストープ部を大きく、用具置き場を小さめにつくった変形の2面炉台。床は大理石タイル、壁は乱張りタイル。どちらも手割り風のランダムな石なので、表情豊かな仕上がり。木の壁の雰囲気にもびつたり似合っている

A

同じ素材でも並べ方で印象は変わるので、

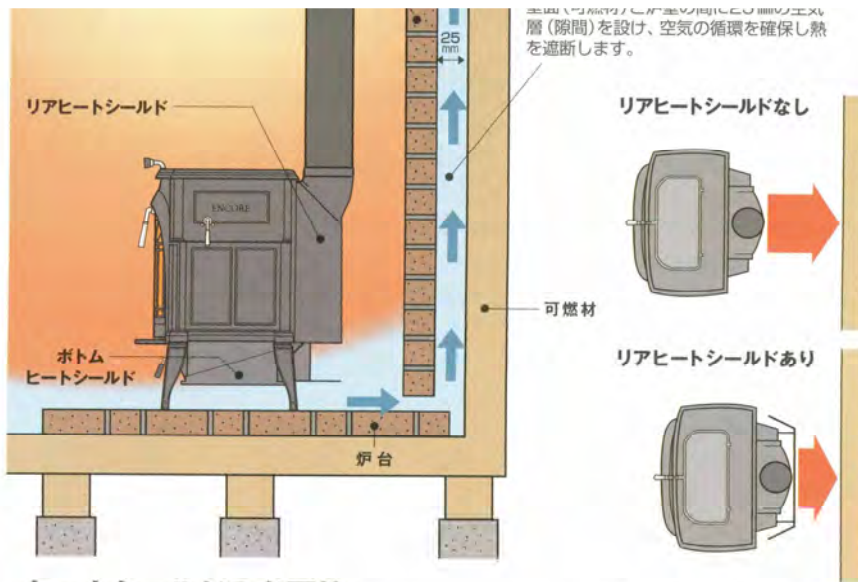
さまざまなパターンを見て お気に入りを掘り ね

安全のために 知っておきたい基礎知識

前述のとおり、ストーブは全周囲から輻射熱が放出されているため、壁面や床などの可燃物から安全な離隔距離（クリアランス）を確保した上でストーブを設置しなければなりません。安全を確保しながらできる限りの居住空間を保ちたい…。その問題を解決するためには可燃物の保護が重要ですので、基本的なポイントをご紹介します。

炉台・炉壁の必要性

ストーブの熱から壁や床などの可燃物を保護する炉台や炉壁。保護の方法はレンガ積みがい一般的ですが、大切なのは壁面（可燃材）と炉壁の間に25mmの空気層（隙間）を設け、空気の循環を確保すること。床（可燃材）のレンガは熱を与えない目的のほか、扉を開いたときにこぼれ落ちた火の粉などから床を保護する役割を果たします。



ヒートシールドの必要性

本体からの熱を遮断する目的として、ボトムヒートシールドとリアヒートシールドがあります。可燃物の上に炉台を設置する場合には、下方への熱を遮断するボトムヒートシールドが必要になります。背面の熱を遮断するリアヒートシールドを設置すると離隔距離が縮まります（イラスト参照）。バーモントキャストिंगスのストーブはボトムヒートシールドを全機種標準装備しています。

バーモントキャストिंगスの新ストーブは各機種に安全な離隔距離が定められています。壁面が可燃材の場合、リアヒートシールドを取り付けることで、離隔距離を短くすることができます。

※壁の材質、炉壁、ヒートシールドの有無により離隔距離は異なりますので、代理店による確認が必要です。

炉台・炉壁の材質による 蓄熱性の違い

熱いストーブから壁や床を安全に守り、インテリアを引き立てるレンガや石などの炉台・炉壁。素材によって蓄熱性が異なりますので、素材とその特徴を知った上で選択しましょう。また、ストーブ本体と炉台の重量を確実に保持できる床の強度が必要となりますので、近くの代理店や設計の専門家に相談してください。

天然石 レンガ

彫影石や大理石に代表される美しい素材。天然石やレンガは色や形、模様の種類が豊富で、部屋の雰囲気に合わせて選択できるのが魅力です。2つとも素材自体に厚いものが多く、温まるのに時間がかかります。しかし、一度温まると蓄熱性に優れ、ストーブの熱がおさまった後も、緩やかに熱を放出してくれます。



タイル 擬石

施工の自由度の高さや仕上がりの美しさなどから、外壁や内装に多く使われますが、炉台の場合は天然石やレンガに比べると材質が薄いものが多く、蓄熱性に劣ります。



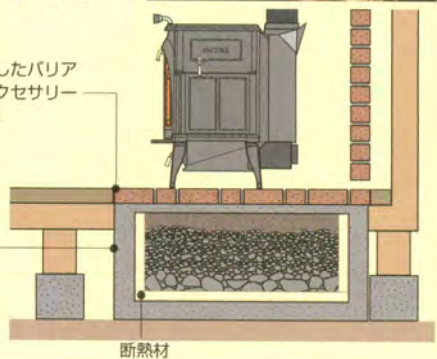
炉台の仕上げと バリアフリー設計

コンクリート基礎から炉台づくりを検討した場合、床と炉台を段差なく仕上げることで、バリアフリーを検討する際に有効です。床面がフラットになる分、部屋に広がり感が生まれます。また、基礎がストーブと炉台の荷重を受けられるため、安全な床を十分確保できます。



床と炉台をフラットにしたバリアフリー対応の床面。アクセサリも置きやすくなります。

ストーブと炉台の重量をしっかりと支えられるコンクリートの基礎。中は、石や砂利、砂でしっかりと固めるのが一般的です。



鉄板 ガラス

シンプルで、素朴な仕上がり。炉台素材。簡易的に取り付けが行えるのが特長です。金属やガラスは熱伝導が早いので、ストーブの熱が絶えると同時に、速やかに放熱してしまします。



ストーブ設置のベースとなる 台をよく知っておこう

ストーブの設置で必ず必要になるのが設置場所の熱対策だ。
という設置ベースを作るのが一般的だが
インの多様化により炉台のバリエーションも増えている。

ストーブによって変わる「離隔距離」

ストーブは家具やTVのように、壁に
たてと寄せて置くことはできない。置
く壁から最低限離さなければいけない
を「離隔距離」と呼ぶ。

ストーブを設置する場所には「炉台(詳
々ページ)」を設置する必要があるが、
によって可燃性の壁材を防護したとし
必ずメーカーが定めた離隔距離を保
たなければならない。

この離隔距離も、輻射熱式、対流熱式、
蓄熱式の順で小さくなる。輻射熱式の薪
ストーブは360度に熱と赤外線を放射す
るため、前後左右、そして下方への熱伝導
を考えなければならない。一方で、対流熱
式と蓄熱式のストーブは本体から直接大き
なカロリーの輻射熱を発しないため、比較
的離隔距離を短くできるというメリットを
もっている。

鶏が先か卵が先か……というところだが、
家の構造や空間の雰囲気、炉台のデザイン、
そして離隔距離という3つのファクターを
考えて薪ストーブ選びをするという方向性
もある。

ちなみにヒートシールドという熱を一定
方向に伝えないようにする遮熱板が用意さ
れており、それを使えば離隔距離を短くで
きる。

リアヒートシールドを使えば離隔距離が短くなる



前述の通り、ヒートシールドという熱遮断のための金属板を使用すれば、離隔距離を大幅に短くすることができる。ヒートシールドは設置場所の壁や床が可燃性の時に使用することが多いが、中には対流熱を前方に送る機能が付いているものもあるため、炉台に設置した薪ストーブでも積極的に使用する場合がある。ヒートシールドは、薪ストーブの背面に取り付けるものを「リアヒートシールド」、底面に付けるものを「ボトムヒートシールド」と呼ぶ。



煙突にもヒートシールドが必要な場合がある

家の構造などの問題から、煙突を壁に近づけて配管しなければならないケースがある。たとえ炉台を設置しても、炉台の壁を天井まで伸ばすのは難しい。また室内煙突はシングル煙突を使うことが多く、もとの壁材が露出した部分が低温炭化するからだ。そんな時には、煙突にヒートシールドを貼って壁への熱の

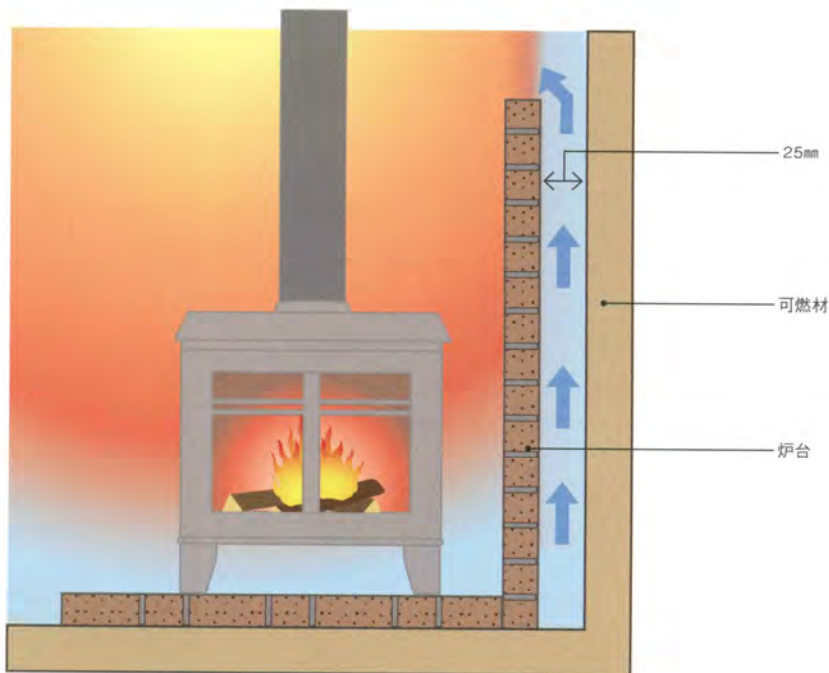


薪ストーブを置くには炉台が必要

薪ストーブを設置する場合、まず設置場所周辺の壁や床に防火・防熱対策を施す必要がある。これは薪ストーブから放射された輻射熱によって、可燃性のある壁や床がダメージ（低温炭化）を受けないようにするためだ。低温炭化は住宅火災につながる恐れがあるため、十分な対策が必要となる。そのために必要になるのが「炉台」だ。

炉台には耐火レンガをはじめ、タイルや天然石、コンクリートなどさまざまな素材を用い、部屋の雰囲気に合わせたコーディネートが行われる。最近では壁と別素材を使って炉台を作るという手法の他に、壁自体に耐火・耐熱素材を用いて部屋に自然に溶け込むような設置場所を作ることもある。

炉台を設置する場合は、右の図のように炉台と可燃性壁材の間に25mmの空気層を作り、炉台の脇から空気が入って循環できるようにしなければならない。



炉台に使う材質とその特徴を知る

レンガ



蓄熱性
★★★★★
コスト
★★
耐久性
★★★★★

薪ストーブの炉台としては伝統的なスタイル。普通のレンガではなく、耐火レンガを使用する。見た目はゴージャスで、蓄熱性が高い。また壁や床への重量負担が大きく、設置場所への補強などが必要になることもある。耐火レンガの炉台はDIYも可能。

コンクリート



蓄熱性
★★★★★
コスト
★
耐久性
★★★★★

難燃性の建築材で、コンクリートをそのまま壁材に使っている住宅も多い。見た目にシンプルで、モダンタイプの薪ストーブとのマッチングがいい。蓄熱性が高く薪ストーブに向いている素材だが、大幅なリフォームが必要になる。

天然石



蓄熱性
★★★★★
コスト
★★★★
耐久性
★★★★

炉台の床部分だけに天然石を使用するケースが多い。現代的な建築様式にもマッチングがよく、設置も比較的容易だ。蓄熱性が高く、薪ストーブが消えてからもしばらく放熱する。衝撃に弱いというのがデメリットだ。

鉄板&ガラス



蓄熱性
★
コスト
★★★★★
耐久性
★★★★★

ボトムヒートシールドが付いていて下方への熱対策がなされている薪ストーブなどの炉台には、薄い鉄板や耐熱ガラスの板を使うことが多い。見た目にシンプルで、設置・移動が容易だ。ガラスの場合は衝撃に弱いので、多少気を遣うことになる。

タイル

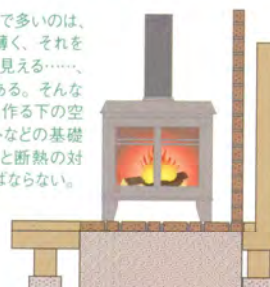


蓄熱性
★★★★
コスト
★★★★
耐久性
★★★★

設置したい広さの調整が容易で、色などの選択技も多い。設置コストが安いというメリットもある。レンガの目地に比べると掃除がしやすい。ただし、厚みは5〜9mm程度であるため、鉄板と同じように防火性能のある下地材を使う必要がある。

古い住宅などは 床下の対策も必要になる

古い住宅などで多いのは、床材が非常に薄く、それを剥がすと地面が見える……、というケースがある。そんな場合は、炉台を作る下の空間にコンクリートなどの基礎を作り、耐荷重と断熱の対策を取らなければならない。



接眺めて楽しむとか、薪の香りが漂ってくるなど、雰囲気を出する上では最高です。近年は熱効率を上げるため、セラミックスガラスの扉で密閉したファイアーボックス（炉）を持つものが増えてきました。

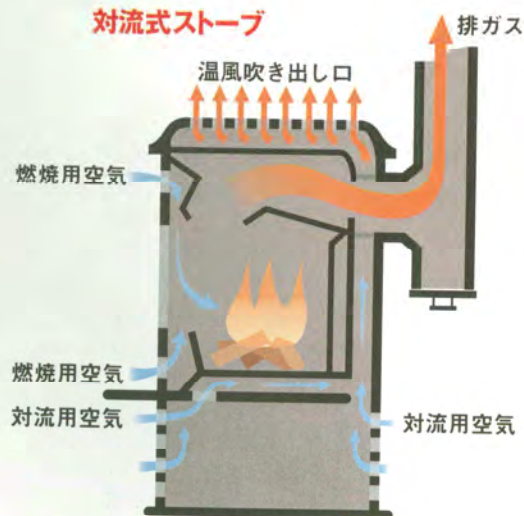
●**輻射式ストーブ**は、ファイアーボックスを囲む鉄やセラミックスをまず熱し、そこから発する輻射熱、とくに遠赤外線で暖をとる構造となっています。熱効率がよくスピーディに部屋を暖めてくれます。

●**対流式ストーブ**は、ファイアーボックスの外側をさらにもう一層囲った二重構造で、その間にある暖められた空気を自然対流、または電動ファンなどで室内に送り出す仕組みです。ストーブの外面は、正面のドアを除き触れてもやけどをするほどの高温にはならず、安全性に配慮されたものとなっています。その反面、輻射式ストーブほど素早く室内を暖めることはできません。

その他に、輻射式と対流式を併用した機種もあります。

燃焼にあたってその効率をいかによくするか、メーカー各社の工夫はさまざまです。その中でも二次燃焼という言葉をよく耳にしますが、これは一次燃焼によって放出される未燃焼ガス

対流式ストーブ



を再度燃やすことで、通常、火室を分離し、二次燃焼室で再度空気を注入して燃焼を完全なものに近づけます。

この未燃焼ガスの再度の燃焼にあたっては、コンバスターと呼ばれる陶器に白金ラジウムなどの薄い膜をメッキした蜂の巣状の触媒装置を通してすることで、より完全に燃焼させるシステムもあります。

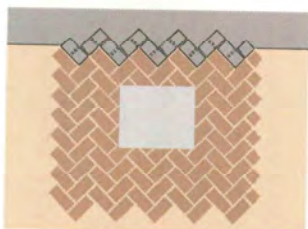
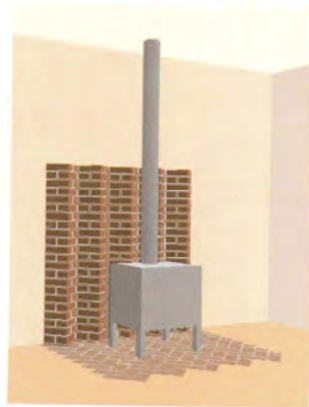
ここで頭に入れておきたいことは「完全燃焼させればさせるほど煙突から出る排ガスはクリーンなものとなり、薪もまた節約される」ということです。

レンガの積み方、他の素材との組み合わせ例

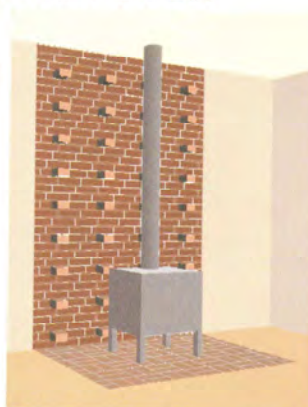
炉台

薪ストーブの設置にあたっては、炉台を設けることが大切なポイントとなります。第1は、家を火災から守る安全面からです。この点に関しては『薪ストーブを上手に使いこなすために』の「炉台の製作」(140ページ)を参照してください。

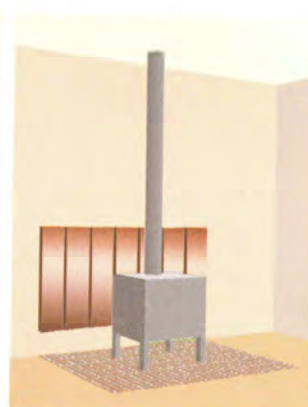
第2の点は、インテリアの面からです。薪ストーブは他のストーブとは異なり、一年を通してその姿を部屋に露出しているのが基本です。そこで、単なる暖房器具としてだけでなく、インテリアの大きなエレメントとして部屋の雰囲気を盛り上げてくれるのが理想です。油絵が額に入って一層引き立つのと同じに、薪ストーブも炉台に上がって一段と輝きます。また、炉台の素材(自然石、レンガ、金属など)や形状によっても部屋のイメージが大きく変わります。



台はレンガのアジロ貼り、壁は屏風状に組む。



台はレンガの市松貼り、壁は1/4ずらして積み部分的に飛び出させる。



台は穴開きレンガ、壁は金属板を組み合わせる。

● 炉台・炉壁の素材や高さにこだわる ●

個性的な炉台・炉壁を
手に入れるには

メーカーやモデル、形状や燃焼方式などによって、薪ストーブの選択肢はずいぶんと広がってきている。それと同じくらいにこだわりたいのは炉台や炉壁のデザイン。特に家屋の新築やリフォームに伴って薪ストーブを導入する場合は、設計・施工に携わるプロフェッショナルにとって腕の見せどころ。基礎工事からしっかりと行っただうえで防炎・断熱処理を施し、床面とピッタリ同じ高さにタイルを敷いた炉台や、カントリースタイルにも意外とマッチする金属仕上げの炉壁など、実例を見ているとさまざまなイメージが膨らんできて実に楽しい。

従来からの住宅に薪ストーブを設置する場合も、工夫次第でデザインにこだわるのはじゅうぶんに可能。専門誌を読み込んでイメージと知識を高めるのもいいし、納得がいくまでショッップの担当さんと相談してみるのもいいだろう。



フラットな炉台

薪ストーブを導入するときは、炉台と床面をツライチにするといった凝った設計も可能



【鉄・耐熱ガラス】

金属や耐熱ガラス製の炉台や炉壁。モダンなデザインのストーブにもマッチする



【石】

重厚なイメージにしたいなら天然石がオススメ。施工はレンガ以上の時間がかかることも



【レンガ】

炉台や炉壁でもっとも一般的なのがレンガ。とくに雰囲気のあるアンティークレンガが人気

● ファイヤーツール・薪の置き場所も計算に入れる ●

炉台は広めにとったほうがいい

どんな薪ストーブを選んでも、必ずといっていいほど当てはまるのが「炉台は広い方がいい」ということ。中型以上の薪ストーブでは、薪をくべるときにサイドドアを開閉するスペースが確保されていると、使い勝手は抜群によくなる。小型の薪ストーブでも、薪

ラックやファイヤーツールのサイズは大型ストーブと変わらない。炉台からはみ出してしまおうと見栄えも悪いし、実用的でもない。炉台を設計する場合は、アクセサリ類を置くスペースもよく計算する必要があるのだ。

火ばさみ

薪の位置を微調整したり、炭になった薪をおき火にして、料理などの準備をするときに便利



薪・焚きつけ

薪はじゅうぶんに乾燥したものを使用する。樹種によって燃え方や炎の色が異なるので、使い分けるユーザーも多い



グローブ

着火や薪の補充には丈夫な革製のグローブを装着。難燃性の中綿が入った、さらに安全性の高いグローブもある



着火剤

キューブ状のものやバック状のもの、落ち葉や小枝を使う場合もある。自分なりの着火法に合った着火剤を使おう



薪台

カントリースタイルからモダンなまでの、さまざまなデザインがあるので、部屋雰囲気にもマッチしたものを選ぼう



バケツ

おしゃれなホウロウ製のバケツが人気。灰を貯めておくのもよし、焚きつけを入れておくのもよしの便利アイテム



ファイヤーツール

燃焼後の灰掃除のためのブラシや、丈夫な諸物の火がき棒がセットになっている。1セットは揃えておきたい

● 炉台・炉壁の設置の流れ ●

流れを把握する

炉台と炉壁は、ストーブを置く部屋の内装が完了してから設置作業を行うのが通常のケース。

周囲に放射する熱がもっとも大きい輻射式ストーブの場合、断熱性もじゅうぶんに考慮しなければならないため、作業にかかる時間も余裕をもって見積もっておきたい。

特に、もっともスタンダードで人気のあるレンガを使った炉台・炉壁の場合、土台や接合剤のセメント（モルタル）が硬化する時間も計算に入れないといけない。標準的な流れとしては、炉台の設置で丸1日、炉壁の設置で丸1日はそれぞれかかる。それに、煙突と本体の設置の時間も算出しておこう。



安全性を考慮すると、炉台と炉壁はなるべく大きなサイズにした方がいい



1. 炉台の位置決め

炉台の中心に薪ストーブ本体を据えなければならぬ。煙突とのズレが起きないように注意する



2. アウトライン決め

設計場所をメジャーで計測ミスがないよう測り、チョークラインを使い炉台のアウトラインを引いていく



3. 養生する

炉台を設置する場所以外をシートとテープでしっかり養生する



4. 炉台の縁取りを作る

縁石をきれいに並べることが意識して作業を進める。コーナー部分や端などの細かいところを実寸に合わせて調整する



5. 鉄筋を敷き詰めモルタルを流し込む

鉄筋を敷き詰めた上にモルタルを広げコテを使って均一な厚みに水平にならす



6. レンガを敷き詰める

水平だしが完了したモルタルの上にレンガをきれいに並べ炉台を完成させる



7. 炉壁の組み上げ

レンガとレンガの距離を一定に保ったまま並べ、目地に隙間ができないように目地用の極細コテでモルタルを押しこんでいく



8. 壁面への固定

L字型の金属プレートを使って壁面と炉壁が固定されるようにネジ留めする



9. 薪ストーブの固定

炉台や炉壁の表面を磨きあげたら、薪ストーブを設置する

薪ストーブはどこに置くもの？

【土間】



玄関の土間に設置すれば床の汚れを気にせずに薪を搬入できる。写真のようにリビングの一角に地面と同じ高さの空間を作り、土間風に設置する方法もある

【キッチン】



キッチン横に置けば、煮込み料理など作るとき、重い鍋をわざわざリビングの薪ストーブまで運ばなくて済む。料理のレパートリーもグッと増えるはずだ

【リビング】



薪ストーブの設置がいちばん多い場所。家族全員で、リビングで過ごす時間が増えたというユーザーがほとんど。炎の効果は絶大といえるだろう

いろいろな場所に置くことができる

薪ストーブの設置場所の堂々の一位はリビング。ほとんどのユーザーが家の中心で自然に家族が集まるリビングに設置している。ただ、設置場所はリビングに限られているわけではない。例えば、キッチン横に設置すれば、料理専用として、オーブンとしても使用できるのだ。料理好きには、たまらない設置場所といえるだろう。

また、最近では自宅以外にも店舗などに薪ストーブを置くケースも増えてきた。喫茶店や美容室、カーショップなど、炎が持つ独特の癒し効果に注目して、人が集まるさまざまな場所に設置されているのだ。鍼灸やマッサージという、ヒーリングのための施設の待合室に設置したところ、患者さんから好評をいただいたという例もある。

引火の心配がなく、土台の基礎工事がしっかり行えて、煙突がズレないように設置できる場所なら、基本的にはどんな場所でも薪ストーブの設置は可能。ビニールハウスに設置した例もあるくらいだ。それぞれ希望する設置場所があつたら、遠慮なく専門業者に相談してみよう。

店舗用など

【ビニールハウス】

観賞用の蘭を育成している園芸業者さんの温室に導入された例。隣にある大型ボイラーは植物用、この薪ストーブは人間用だ



【喫茶店】

居心地のいい、広々とした喫茶店に設置された例。真横は暖かくて長居したくなる、定番人気の席になっている

【ガレージ】

カーショップのガレージに設置した例。不燃物の鉄骨コンクリート敷きの建物なので、設置条件はシンプルなもの





製造中止となってしまったダッチウエストの名機
FA209と鉄板の炉台。この炉台と左に見えるアイ
ンツールは手づくりしたもの



参考にしたい!

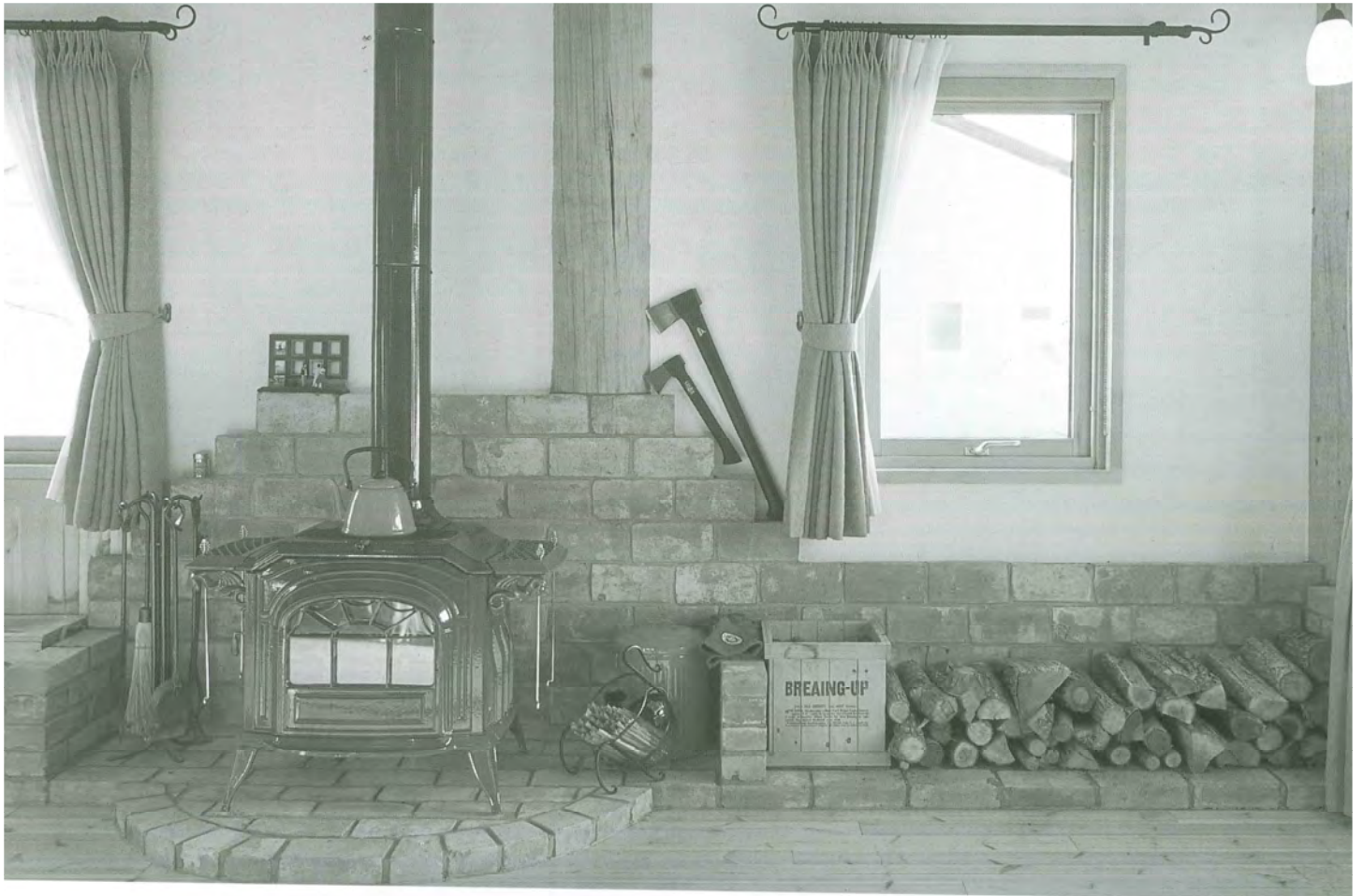
薪ストーブ&暖炉の レイアウト実例集 30



暖房器具だけでなく、インテリアとしての役割も大きいのが薪ストーブと暖炉だ。しかし、薪ストーブの種類は数え切れないほどあるし、炉台の素材も実にさまざま。その中から自分の部屋に合う組み合わせを見つけるのはとても難しいことだろう。そこで、編集部所蔵の薪ストーブまわりの写真を大公開。あなたの薪ストーブ選びと炉台づくりにぜひ、役立てていただきたい!

右頁上／バーモントキャストのアンコールとアンティーク風のレンガの炉台の組み合わせ。囲炉裏まであるのがうれしい
右頁下／インテリアの一部として存在感を放つバーモントキャストのレジュート・アクレム。炉台はレンガを敷いたシンプルなもの
左頁上／薪ストーブを置くスペースの横に薪置き場も設けた炉台。これは便利だ。薪ストーブは、マジスティックのコンコード
左頁下／シルバーバインと呼ばれる希少なバイン材の家に、石を組み合わせたロウレンス・ア





薪を置くためのスペースをたっぷりとした
炉台。これなら寒い夜に外に薪を取りに
行かなくてすむ



右／フィンランドの古いログハウスにあっ
た薪ストーブ。これ一台で暖房も調理も
賄える。上部に見えるネジのようなもので、
空気量を調節する
左／こちらもフィンランドの薪ストーブ。築
100年以上のログハウスのものだけに、
とても味がある。もちろん、現役だ





上／カルチャードストーンをダイナミックに積み上げた炉台が大迫力

左上／レンガを積んでいるモルタルをあえて雑に仕上っている。床に埋め込んだタイルがセンス抜群だ。薪ストーブはダッチウエストの定番 FA265

右下／丸太を使ったハンドカットの壁に、シンプルな石の炉台とモダンなデザインの薪ストーブ、スキンのベーシック 4 CB を組み合わせた例。かなりおしゃれである

左下／壁に背負子を掛け、薪置きに。薪ストーブには、和風な道具類も似合うのだ





ヨツールの薪ストーブを、欧米風にレンガで囲い込んだシックな炉台。煙突も壁の中に入っている



筋交いが入ったポスト&ビームの壁に、石を埋め込んだ例。炉台の枠が枝つき丸太というのがいい



床にタイルを埋め込んで段差をなくしたモダンな炉台。薪ストーブはダッチウエストのエンライト



大型のクッキングストーブ、ハートランドのオーバルと白いタイルの炉台がよく似合っている



お子さんがいる家庭では、安全のためのゲートが必需品。簡単に開閉できるドアがついていることが多い



キッチンの小さな炉台に置かれたアンティーク薪ストーブ。湯沸かしやちょっとした料理にも活躍する



カルチャード・ストーンを使った迫力ある炉台と、大型ストーブのクアドラファイア



ドアのない開放型の古いストーブ。ワイルドなハンドカット・ログハウスには、こん



バーモントキャストイングスの小型機、アスペンにぴったりサイズの炉台。これは



円形の鉄板のシンプルな炉台。壁から離れていれば、これだけでも十分。四方に熱が行くので暖房効率も高い



正方形の石を壁に埋め込んだ美しい炉台。これが真っ赤なアンコールとよく似合っている



壁の中に薪ストーブを埋め込み、暖炉風にしたケース。薪ストーブはヨツールの製品だ



フィンランドの一般家庭でよく使われている薪ストーブ。素材が石なのでじんわり体が温まるのだ



まるで部屋の中で焚き火をしているような、扉もない石の暖炉。焚き火好きにはたまらないはず



レンガを積んでつくった手づくりの炉台。薪を置いておくスペースもしっかり考えられている



明るい色のレンガで素朴な雰囲気仕上



ドア周囲が金色で高級感あるリージェン



薪ストーブは地味な色が多い。だが、カ



←【バーモントキャスティングス】アンコール / 炉台：コンクリートブロック / 壁：コンクリートブロック / 屋内煙突：断熱二重煙突
↓ 屋外煙突：屋根出し、囲いフラッシング断熱煙突、角煙突に丸トップ



48 愛知県岡崎市 E 邸

↓【バーモントキャスティングス】アンコール / 炉台：イタリアタイル / 壁：ドイツレンガ / 屋内煙突：断熱二重煙突
← 屋外煙突：屋根出し、レンガ張りフラッシング断熱煙突、角煙突に丸トップ



岐阜県美濃加茂市 R 邸

バーモントキャスティング アンコール・エヴァーバー
炉台：タイル / 壁：タイル
内煙突：断熱二重煙突
外煙突：屋根出し、囲いフラッシング断熱煙突、角煙突に丸トップ



46 滋賀県米原市 S 邸

↑【コンツラ】C685 / 炉台：なし / 壁：なし / 屋内煙突：ストーブ周りのみシングル煙突、他は断熱二重煙突
→ 屋外煙突：屋根出し、屋根囲いフラッシング断熱煙突、角煙突に丸トップ



50 岐阜県白川町 D 邸

↓【バーモントキャスティングス】デファイアント / 炉台：天然御影石 / 壁：タイル / 屋内煙突：ストーブ周りのみシングル煙突、他は断熱二重煙突
← 屋外煙突：屋根出し、囲いフラッシング断熱煙突、角煙突に丸トップ



↓【レザン】マーンとヘンダー LG / 炉台：天然御影石 / 壁：天然御影石 / 煙突：ストーブ周りのみシングル煙突、他は断熱二重煙突、屋根出し、囲いフラッシング断熱煙突、丸トップ。煙突を屋内に通すことで暖を得ることもできる



49 岐阜県多治見市 I 邸

↑【バーモントキャスティングス】アンコール / 炉台：天然石スプリット / 壁：天然石スプリット / 屋内煙突：ストーブ周りのみシングル煙突、他は断熱二重煙突
← 屋外煙突：屋根出し、囲いフラッシング断熱煙突、角煙突に丸トップ



53 埼玉県深谷市 A 邸

←【バーモントキャスティングス】アンコール / 炉台：タイル / 壁：レンガ / 屋内煙突：ストーブ周りのみシングル煙突、他は断熱二重煙突
↓ 屋外煙突：屋根出し、丸トップ。床下に排気を循環させ、暖をとることもできる



52 長野県伊那市 W 邸

←【バーモントキャスティングス】イントレピッドII / 炉台：イタリアタイル / 壁：イタリアタイル / 屋内煙突：ストーブ周りのみシングル煙突、他は断熱二重煙突
↓ 屋外煙突：屋根出し、囲いフラッシング断熱煙突、角煙突に丸トップ





62 岐阜県可児市 D 邸

↑【ヨツール】F400 / 炉台：タイル / 壁：レンガ / 煙突：ストーブ周りのみシングル煙突、他は断熱二重煙突、屋根出し、丸トップ



←【ヨツール】F500 / 炉台：ガラスプレート / 壁：なし / 煙突：ストーブ周りのみシングル煙突、他は断熱二重煙突、屋根出し、丸トップ



さくらプランニング

薪ストーブの機能性や安全性に大きな影響を与える煙突の施工に対し、ユーザー毎の建物状況・環境に応じたプランニングを提供してくれる。既成の住宅へのストーブ設置経験も豊富である。

64 愛知県日進市 W 邸

→【ヨツール】F500 / 炉台：タイル / 壁：レンガ / 煙突：ストーブ周りのみシングル煙突、他は断熱二重煙突、屋根出し、角トップ。ストーブ近くにステンドグラスが施されているため、炉台にアンティーク感を出し統一感をもたせてある



63 岐阜県美濃市 R 邸

↓【モルソー】7110CB / 炉台：天然石 / 壁：天然石 / 屋内煙突：ストーブ周りのみシングル煙突、他は断熱二重煙突
→ 屋外煙突：屋根出し、二重煙突、丸トップ



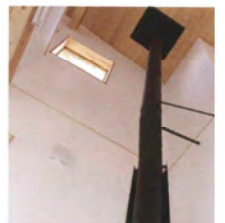
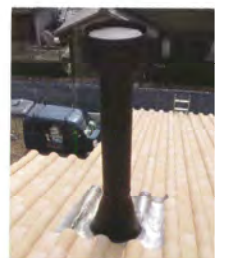
66 岐阜県岐阜市 R 邸

←【ヨツール】F400 / 炉台：スチール / 壁：スチール / 屋内煙突：ストーブ周りのみシングル煙突、他は断熱二重煙突
↓ 屋外煙突：屋根出し、断熱二重煙突、丸トップ。ストーブ本体横に作りつけの家具があるため、炉台のスチールプレートに合わせて遮熱板も設けてある



65 岐阜県岐阜市 A 邸

↓【ドブレ】640CB / 炉台：天然石 / 壁：天然石 / 屋内煙突：ストーブ周りのみシングル煙突、他は断熱二重煙突
→ 屋外煙突：屋根出し、断熱二重煙突、丸トップ



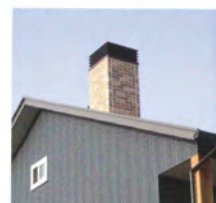
68 岐阜県土岐市 I 邸

←【ビキャン】ビキャンオープン / 炉台：スチール / 壁：スチール / 屋内煙突：ストーブ周りのみシングル煙突、他は断熱二重煙突
↓ 屋外煙突：屋根出し、断熱二重煙突、丸トップ。煙突は吹き抜けを通してある



67 愛知県日進市 N 邸

→【ヨツール】F3 / 炉台：スチール / 壁：レンガ / 屋内煙突：ストーブ周りのみシングル煙突、他は断熱二重煙突
↓ 屋外煙突：屋根出し、断熱二重煙突、角トップ 屋外部の角煙突は高級感をもたせてある





→【パーモントキャスティングス】アンコール / 炉台：天然石 / 壁：天然石 / 屋内煙突：ストーブ周りのみシングル煙突、他は断熱二重煙突
↓ 屋外煙突：屋根出し、断熱二重煙突、丸トップ



チムニー

北欧やアメリカの人気薪ストーブメーカーの製品を取り扱う専門店。東海・近畿地区を中心に、設置・施工・メンテナンスのトータルサポートを行っている。取り扱いメーカーが多い。



79 三重県熊野市 I 邸

→【ヨツール】F500 / 炉台：タイル / 壁：天然石 / 煙突：断熱二重煙突、屋根出し、丸トップ

80 三重県伊勢市 N 邸

←【スキャン】CI-1GS CB / 炉台：スチール / 壁：左官塗り / 屋内煙突：ストーブ周りのみシングル煙突、他は断熱二重煙突
↓ 屋外煙突：屋根出し、断熱二重煙突、丸トップ



78 三重県名張市 P 邸

↓【ネスターマーティン】S43 / 炉台：大谷石 / 壁：なし / 屋内煙突：ストーブ周りのみシングル煙突、他は断熱二重煙突
→ 屋外煙突：屋根出し、断熱二重煙突、丸トップ



83 三重県 K 邸

↑【スキャン】CI-1GS CB / 炉台：テラコッタタイル / 壁：スチール / 煙突：二重煙突、屋内はシングル煙突

82 三重県 N 邸

↓【パーモントキャスティングス】アンコール / 炉台：スチール / 壁：左官塗り / 煙突：ストーブ周りのみシングル煙突、他は断熱二重煙突、屋根出し、丸トップ



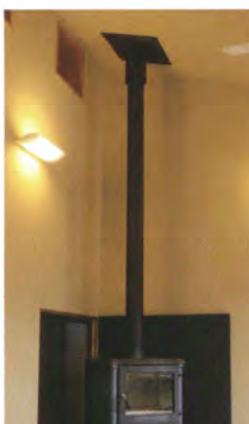
81 三重県菰野町 D 邸

←【ネスターマーティン】H43 / 炉台：スチール / 壁：サイディングボード / 屋内煙突：ストーブ周りのみシングル煙突、他は断熱二重煙突
↓ 屋外煙突：屋根出し、断熱二重煙突、丸トップ



86 三重県菰野町 W 邸

↓【ネスターマーティン】S43 / 炉台：土間打ち / 壁：左官塗り / 屋内煙突：ストーブ周りのみシングル煙突、他は断熱二重煙突
← 屋外煙突：屋根出し、断熱二重煙突、丸トップ



85 三重県津市 R 邸

←【ネスターマーティン】S43 / 炉台：スチール / 壁：スチール / 屋内煙突：ストーブ周りのみシングル煙突、他は断熱二重煙突
↓ 屋外煙突：屋根出し、断熱二重煙突、丸トップ



84 三重県菰野町 E 邸

↓【ヨツール】F400 / 炉台：タイル / 壁：タイル / 煙突：断熱二重煙突、屋根出し、丸トップ



薪おじさん

四国全域でサービスを展開する薪ストーブの専門店。ヨツール、パーモントキャスティングス、ハンプトンの正規代理店でもある。他メーカーの製品も豊富に扱っている。二重煙突を推奨している。

103 香川県高松市I邸

←【ヨツール】F500 / 炉台：レンガ / 壁：レンガ / 煙突：断熱二重煙突、屋根出し、丸トップ



107 香川県綾川町X邸

↑【パーモントキャスティングス】アンコール / 炉台：タイル / 壁：外壁材 / 煙突：断熱二重煙突、屋根出し、角トップ



105 徳島県美馬市G邸

→【ヨツール】F500 / 炉台：石 / 壁：レンガ / 煙突：ストーブ周りのみシングル煙突、他は断熱二重煙突、壁出し、丸トップ

106 愛知県今治市N邸

←【ヨツール】F500 / 炉台：レンガ / 壁：レンガ / 屋内煙突：ストーブ周りのみシングル煙突、他は断熱二重煙突
↓ 屋外煙突：屋根出し、断熱二重煙突、丸トップ



109 香川県三豊市I邸

←【ヨツール】F500 / 炉台：タイル / 壁：なし / 煙突：ストーブ周りのみシングル煙突、他は断熱二重煙突、屋根出し、丸トップ

108 香川県かがわ市P邸

↑【ヨツール】F500 / 炉台：タイル / 壁：セメント系ブリック / 煙突：断熱二重煙突、屋根出し、丸トップ

<<< お問い合わせ先 >>>

・サカシタベチカ
・ダッチウエストジャパン 本社ショールーム
・暖樂工房CHIJIO
・STOVE & HOUSE
・ファイヤーサイド 本社ショールーム
・TRICONOTE
・薪ストーブのBee
・山の家
・日本薪ストーブライフ 名古屋本社&ショールーム

011-863-6600
0155-24-6085
0191-46-5115
0493-23-2334
0265-82-7366
0766-30-5656
0577-73-6020
0574-25-8481
052-819-0891

・青い空
・日本暖炉
・さくらプランニング
・夢木香
・暖炉・薪ストーブ 専門店 Chimney (チムニー)
・ファイヤープレイス三重
・京阪エンジニアリング
・薪おじさん本店

0568-91-2040
052-936-3536
0565-77-0180
052-807-4890
059-391-0630
059-225-0051
075-682-7177
0883-62-2152



豊かな環境で、美味しいものをいただきながら歓談する贅沢なひととき。大きな窓は、景色だけでなく陽光も呼び込み、冬も暖かい。窓はペアガラスにしたうえ、断熱ロールスクリーンを備えている。



建具にも無垢材を用い、柱梁などの構造材も金物を使わずに組み上げた岩崎邸。薪ストーブ背面の石詰みは、横内事務所のスタッフが、敷地から出たゴロ石をタワシで洗い、横内さんの指示のもと積み上げた力作。

飛騨 木材

空目も美しい数々の銘木。
桧や杉はもちろん、栃(トチ)、
山桜(ヤマザクラ)、水楡(ミ
ズナラ)、栓(セン)など各種
木材で制作可能です。



健康 桧畳

抗菌・防虫・リラックス効果
があるとされるヒノキチップ
を、接着剤など一切使用せず
縫製のみで仕上げました。
畳表は熊本県産有機栽培
い草を使用しています。



[新作] 桧 + 天然塗料 + ひのき畳

フルオーダーメイドの

飛騨フォレスト株式会社

〒509-2505 岐阜県下呂市萩原町古閑248-2

tel.0576-52-4460 fax.0576-52-3956

www.hida-f.co.jp



用途や大きさを問わず幅広く手がける岩崎さんの作品(「工房 夏安居」<http://www.geango.com/>)。右/小さなオブジェ、「MINI CRANE (ウォルナット)」)。アクセサリを掛けて使う人も。左下/蓋があるので衛生的なカトラリーケース(ナラ、つまみ部分はウォルナット)。左上/花器のほか、陶器も映える花台(天板は紫檀、脚はウォルナット)。



岩崎邸のディテール。左より、追っ掛け大栓継ぎとした桁材。 / 金物を使わず組み上げた階段。 / 窓の錠にはクレセントを使わず、小さな木栓を。 / 鼻先を出した柱梁の取り合い。



[DATA]

所在地: 長野県諏訪郡

延床面積: 175㎡ (1階 130㎡ 2階 45㎡) 敷地面積: 1160㎡

竣工: 2011年1月 (工期 2010年4月~2011年1月)

設計: 横内敏人建築設計事務所 (横内敏人、半海宏一)

☎ 075-761-1976

施工: (布風の森 (土谷龍司、内田 建) ☎ 0266-79-5446

構造形式: 木造在来工法

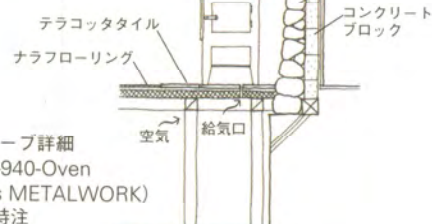
主な外部仕上げ: 屋根/ガルバリウム鋼板 軒天井/杉源平上

小節 外壁/杉源平上小節 (柿渋塗)

主な内部仕上げ: 天井/杉源平上小節 壁/シルタッチ 床/ナラフローリング



左上/岩崎さん姉妹と、施工を手がけた「風の森」の土谷さん(後列左)、横内事務所の担当・半海宏一さん。左下2点/特注した薪ストーブのディテール。銀色の座金を黒く塗装した上、ストーブ下段のピザ用オープンを変え。



■ストーブ詳細
KMW-940-Oven
(Ken's METALWORK)
を元に特注



信州駒ヶ根

「赤須ヶ丘タウン」

ここから始まる
優雅なスローライフ



◆販売価格 492～658 万円
◆区画面積 116～166 坪
◆平均坪単価 47,000 円

物件概要

○地目・宅地○建築協定有○建ぺ率 50%・容積率 80%○電気・中部電力○市営上水道○下水道有(下水道負担金 859,000 円要)○プロパンガス○小学校 2.5km○中学校 2.7km○JR 飯田線駒ヶ根駅へ車で 8 分

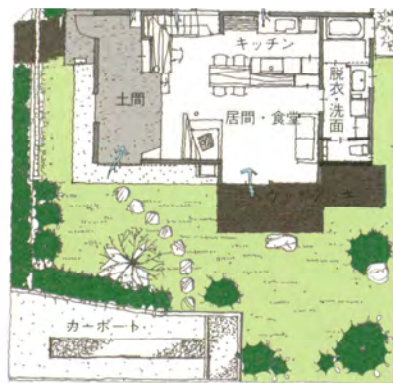
信州駒ヶ根田舎暮らし相談会 in 名古屋

○日時 平成 24 年 1 月 14 日 (土)
AM10 時～PM4 時
○会場 「ウインクあいち」
(愛知県産業労働センター)
※JR 名古屋駅より徒歩 2 分

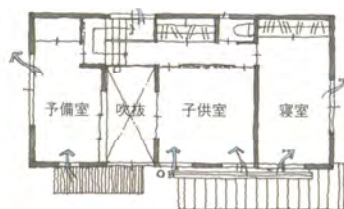
資料請求

長野県駒ヶ根市企画財政課 駒ヶ根市土地開発公社

〒399-4192 長野県駒ヶ根市赤須町 20 番 1 号
TEL 0265-83-2111 FAX 0265-83-4348
E-mail totikou@city.komagane.nagano.jp



1F



2F



上/平面図上の矢印は通風を現す。左/浴室の壁面。ご主人こだわりのタイルが綺麗だ。

[DATA]

所在地：千葉県
敷地面積：211.14㎡
延床面積：109.69㎡
(1 階 57.20㎡ 2 階 52.49㎡)
竣工：2010 年 11 月 (工期 2010 年 5 月～11 月)
設計：加藤武志建築設計室 (加藤武志、森藤麻衣子) ☎ 047-322-2132
施工：(株)くに建築 (現場監督：森川正美
大工棟梁：中台 明) ☎ 047-465-7131

構造形式：在来木造
主な外部仕上げ：
屋根/ガルバリウム鋼板瓦葺き
軒天井/ケイカル板
外壁/杉板縦張りウッドロング・エコ塗装
主な内部仕上げ：
天井/和紙壁紙張り 壁/漆喰塗り 床/杉無垢フローリング 土間/玉砂利洗い出し仕上げ

【月イチ素人林業隊】



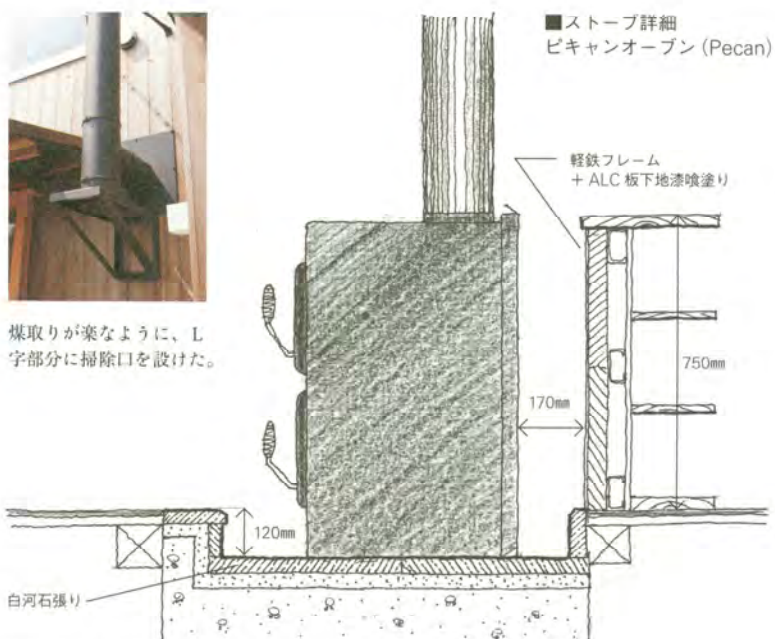
川城さんは、家を作る前から、林業ボランティア活動に参加していました。ストーブに使う薪は、この活動の際に間伐した木などを活用しているそうです。

川城さんが参加している「月イチ素人林業隊」は、埼玉県・都幾川村で、地元林業家の協力のもと、山林の下刈りや間伐をするボランティアグループです。活動はその名の通り、月に 1 回、参加者は素人。女性もいます。村の古民家を借りて、囲炉裏料理をつくるなどのイベントもあります。楽しみながら、山林保全にかかわってみませんか。詳細は以下のホームページをご覧ください。

<http://tukiichiringyou.web.fc2.com/y.okamoto@deluxe.ocn.ne.jp>



煤取りが楽なように、L 字部分に掃除口を設けた。



■ストーブ詳細
ピキャンオープン (Pecan)

軽鉄フレーム
+ ALC 板下地漆喰塗り

750mm

170mm

120mm

白河石張り

取材・文 小島雄輔



漆喰壁や杉板の天井など、細部にまで職人の手わざが光る。「泉先生とのコラボレーションも回を重ね、大工や左官もデザインを深く読み取ることができるようになってきました」(平尾社長)。

美しい檜の床に、漆喰の壁。天井高3メートルの広間に入ると、まず目に飛び込んでくるのが薪ストーブだ。あかあかと燃える炎は、建築家が設計した端正な空間に、いつもの活気を与える。

省エネ対策の一環として

モデルハウスに薪ストーブを導入した経緯をうかがいに、平尾工務店の平尾博之社長を訪ねた。すると平尾社長は「今回のモデルハウスのテーマは、省エネルギー」なんです」と話し始めた。「これまで取り組んできたのは、自然素材とデザインの両立。それに加えて省エネルギーに取り組んだ背景には、『現代の家づくりには、環境配慮が欠かせない』という思いがあったからなんです」

この思いを実現すべく、まずは2010年に自社の社屋を省エネ仕様に変更した。6キロワットの太陽光発電パネルを設置したほか、照明やエアコンを省エネタイプのものに、サッシもペアサッシに変更。その効果は大きく、5〜7月の電力使用量で見ると、前年比23〜25%もの削減につながったという。こうして効果

made for fire
made for life

シンプルで滑らかなフォルムはデザイン性と機能性に優れた“デンリッシュ・モダン”のしるしであり、これがSCANブランドを世界のベストセラーへと導き出した理由です。著名デザイナー陣からはストーブの外観デザインを手掛けると同時に、どのようにストーブが機能するかなどを創案することにも深く携わっています。

SCAN CI-8GLCBは、美しく豊潤な炎が充分に楽しめるラージウィンドーが大きな魅力の薪ストーブです。



(標準モデル)
367,500円(本体価格350,000円)



SCAN CI-8GLCB



(ソープストーンモデル・サイドのみ)
<受注発注>
420,000円(本体価格400,000円)

(ソープストーンモデル・サイド/トップ)
<受注発注>
472,500円(本体価格450,000円)

☎047-361-3800

<http://www.shingu-shoko.co.jp/~stove/>

●アンデルセン・ストーブ日本発売元 ●一般社団法人日本薪ストーブ協会会員 ●



株式会社 新宮商行

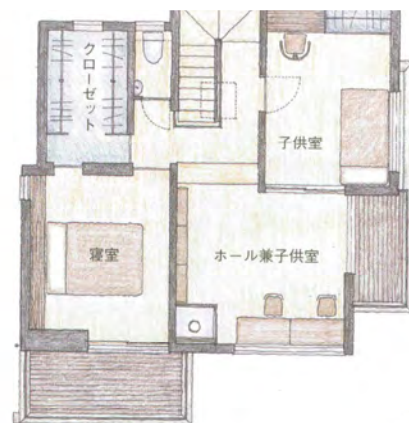
本社 〒047-0032 北海道小樽市穂穂2丁目1番1号
機械本部 〒270-2231 千葉県松戸市松台6丁目7番5号
営業所/北海道・東北・東京・名古屋・大阪・福岡 出張所/郡山・高知



木の塀がまちなみに調いを与えつつ、外からの視線を遮る。

[DATA]

所在地：兵庫県宝塚市中筋 4-9-48
家族構成：夫婦+子ども2人(想定)
延床面積：105.03㎡
(1階 56.55㎡ 2階 48.48㎡)
敷地面積：102.19㎡
竣工：2010年11月
(工期 2010年7月～11月)
設計 泉 幸甫 ☎ 03-5950-2059
伊藤誠康 ☎ 03-5395-5423
伊藤嘉浩 ☎ 059-351-8301
施工：株平尾工務店 ☎ 0795-47-1238
構造形式：在来木造軸組工法
主な外部仕上げ：屋根/ガルバリウム
銅板葺き 軒天井/杉板 外壁/ラスモルタル左官仕上げ、板張り
主な内部仕上げ：天井/杉板、漆喰
壁/漆喰 床/檜フローリング
工費：2500万円



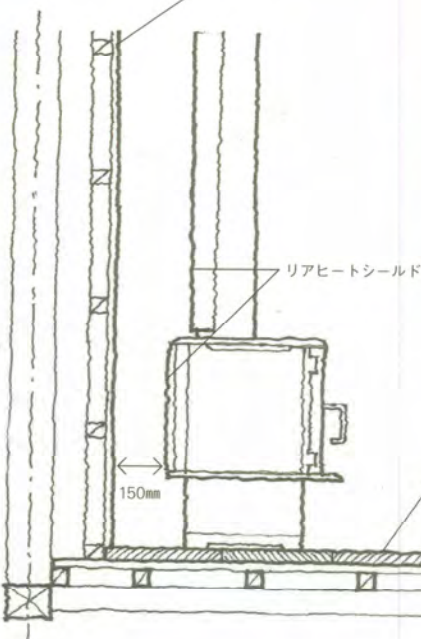
2F



1F

■ストーブ詳細 3440CB (morsø)

ラスボード+
石膏下地漆喰塗り



リアヒートシールド

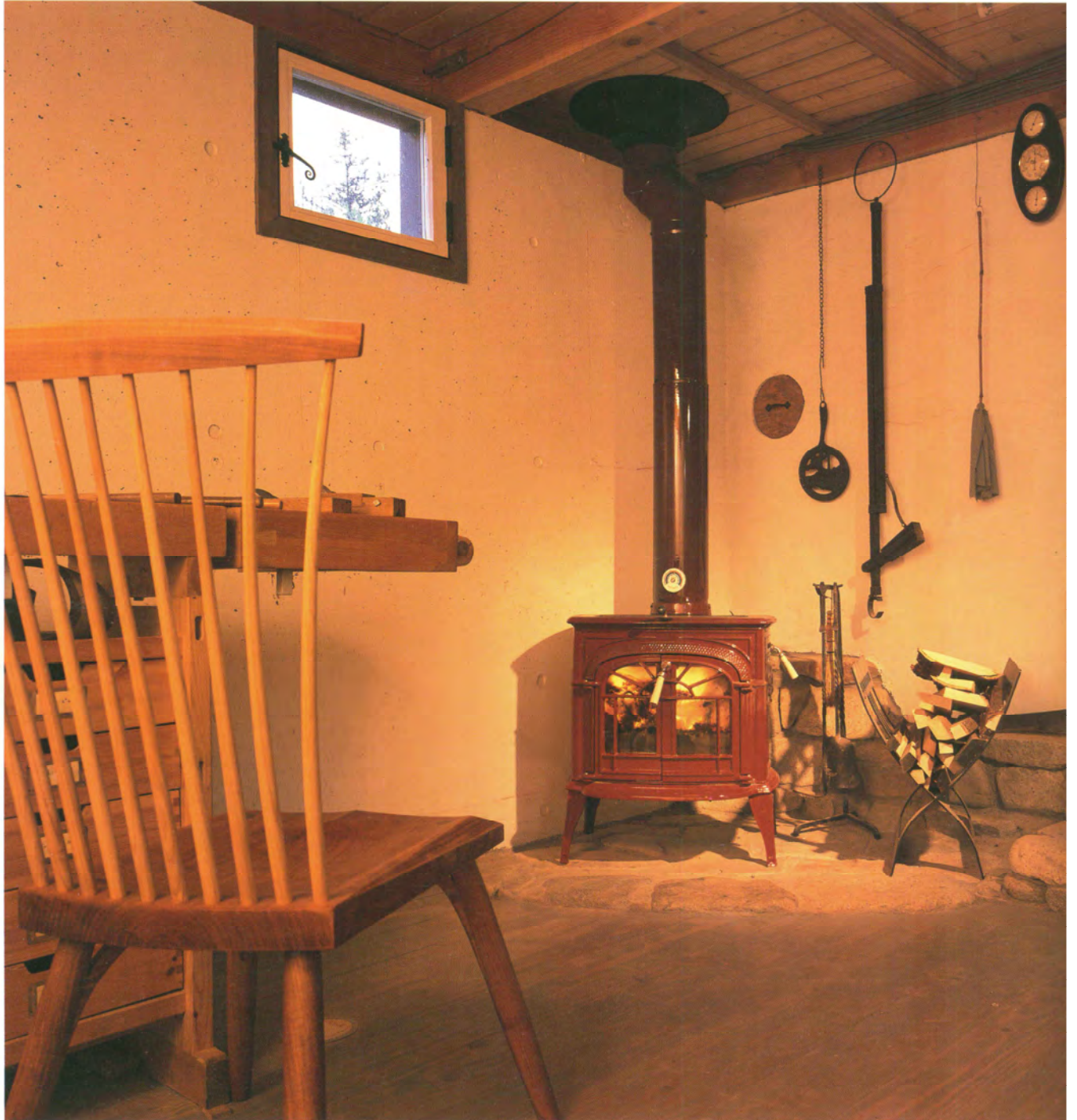
150mm

大谷石(厚45mm)

檜フローリング



上/発電量を確認できるモニター。
右/平尾社長(左)と泉さん。今回の設計には、地域主義建築家の会のメンバーである伊藤誠康さん、伊藤嘉浩さんも加わっている。



バーモント・キャストリング社の赤いエナメル
の“イントレピッド”。ワーク・ショップの
冬を暖め、冬を木工に打ち込む。

建築家 松原正明氏
に聴く

Learning about fireplace and wood stoves

薪ストーブの ある暮らし

福島県の“週末住居”、そして東京板橋区のご自宅でも薪ストーブが使われている、建築家の松原正明さん。薪割り歴8年という住宅のプロが語る、ストーブのある暮らしの楽しみ。

オブスキュアインク
Text by obscura

松本保
Photographs by Tamotsu Matsunaga





温かな光、薪のはぜる音
家族で楽しむゆるやかな時間

広々とスペースをとった居間棟の全景。外には緑のヤマが広がる。右(2点)ノワイドな開口部の外にたる跳ね出しデッキと、そちら側から見た外観。家自然の中にとけ込んでいる。上(3点)ノ「薪ストーブが命」という松原さん。8年近く薪の準備を自らされており、「常に薪のことを考えていて、ないと落ち着かない(笑)」気分になるという。薪割りも楽しんで行っており、1年は乾燥させる期間が必要なため、常に2シーズンの薪のストックが積まれている。「秋から冬にかけての広葉樹を、寒いうちに切って割っておくのが一番的的です。そこから乾燥させて、その次の冬に使います」に切った木は水分を多く含むため、木を乾燥させる時



80
万円台

E



D

90
万円台70
万円台

D ハートランド(カナダ)

オーバル**¥966,000**

レストランなどの商業施設でも使われている大型クッキングストーブ。つややかな色合いが魅力的なハイスペックモデル。

●重量：290kg●最大出力：12,600kcal●
燃焼方式：輻射式●燃料：薪●材質・仕上げ：
鋳鉄●発売元：長野総商

E ハートランド(カナダ)

スウィートハート**¥861,000**

蛇口付き給湯機や保温棚など、高い機能性はそのままだ、ハイスペックモデル「オーバル」をホームユースに最適化したモデル。

●重量：215kg●最大出力：8,820kcal●
燃焼方式：輻射式●燃料：薪●材質・仕上げ：
鋳鉄●発売元：長野総商

F ヘルゴン(スペイン)

ディーバ100**¥714,000**

クックトップは、セラミックガラス面に鋳鉄のグリル付き。パワフルな出力と広いオープンスペースは、いつもの料理をより一層楽しませてくれそうです。

●重量：219kg●最大出力：11,600kcal●
燃焼方式：輻射式●燃料：薪●材質・仕上げ：
鋳鉄●発売元：長野総商

G エッセ(イギリス)

エッセクッキングストーブ**¥1,200,000**

暖房用のストーブとしても優秀なクッキングストーブ。シンプルながら、上部の放熱シールドとオープン機能を完備。本誌p.108からはこれを使ったレシピも紹介。

●重量：250kg●出力温度：平均出力
6.1kw/h●燃焼方式：輻射式●燃料：薪●
材質・仕上げ：鋳鉄(炉内に断熱材入り)●
発売元：グランドビル

100
万円上

G

70
万円台80
万円台90
万円台100
万円上



写真左・中列上／熾火を使って「アンコール」に火を熾すポールさん。お宅には薪ストーブが3台ある。リビングとファンのある2階全体を暖めてくれる大型の「デファイアント」、キッチンには「ドミナ」、ダイニング脇の作業スペースには「アンコール」。写真中2点／スティーマーにエッセンシャルオイルを加えると部屋中にいい香りが広がる。これも薪ストーブを楽しむ秘訣。写真右上／鉄製フライパンや調理器具が使い込まれ、いい味わいに。右下／やわらかなあたたかさをもたらす炎。



火の熾し方(右から)。①残っていた灰に窪みをつけてから焚きつけの小枝を組み上げる。②細めの薪を数本載せ、その上に中ぐらいの大きさの薪を2本渡す。③井桁の中央に置いた着火剤に火をつけ、火が回るのを待つ。④火が薪に十分移ったのを確認後、さらに薪を加える。

ポール・キャスナーさんは生まれも育ちもアメリカのボストンだ。大学生のとき尺八の演奏を聴いてはれ込み、日本に習いに来た。自由気ままに尺八の練習がしたいと長野の山奥へ。近所の老人に畑仕事を教わりながら自給自足の日々だったという。長野の夏は過ごしやすいが、冬の寒さは「予想外だった」。そこでアメリカに一時帰国して見つけてきたのが、バーモントキャスティングス社の薪ストーブだ。それまで使っていた囲炉裏や石油ストーブと違って「家じゅうが暖まるんだよね」。音楽仲間からその仲間へとストーブの評判が広がり、購入希望者が増えていった。それで、輸入販売会社ファイヤーサイドを始めたのである。

以来、「薪ストーブ・ライフを楽しむ手伝いをする」が同社のモットー。が、ここ数年は手伝いたいことが一つ増えたという。地元も含め山の荒廃が気にかかるのだ。ポールさ

山を守る手伝いをしよう

手間がかかるし疲れる。でも、そこからいい時間が生まれるんだよね」と言って笑う。

薪ストーブを 囲むひととき

そこでは、ご主人が割った薪で暖をとり、奥さまのつくった薪ストーブ料理を楽しむ、ゆったりとした時間が流れている。「本物のログハウス」を選んだ、Yさん一家の住まいを訪ねた。

写真＊畑耕 文＊上野裕子



ストーブのそばには、薪ストーブ用のランタン（左）と斧（右）が飾られている。

せっかく建てるなら、
本物のログハウスを！

つくばエキスプレスの駅から徒歩



忙しい診察を終え、火の前で家族
とともにくつろぐひととき。

薪ストーブのある本物の木の家 🔥

埼玉県・千葉県 千葉工務店 【事例】森邸

火のぬくもりを楽しみ 環境にも貢献する

写真＊川辺明伸 文＊松川絵里



上右／無垢の国産材や、火山灰を主成分とした仕上げ材を使った室内には、清浄な空気が流れる。左上／薪ストーブを活用した、焼きイモやピザづくりも冬の楽しみの一つ。中／寝る前に大きな薪をくべておくと、朝までほんのり暖かさが持続する。左／暖気が吹き抜け伝いに2階に昇り、家中を循環する。



「キャンプファイアーや旅先の暖炉の思い出から、生火のぬくもりを日常生活に取り入れたいと考えていました」。内科医の森正道さんは、薪ストーブへの思いの原点をそう振り返る。森さんは3年前、千葉県流山市に診療所と自宅を建設した。建物の使用期間はもちろん、廃棄の時まで環境や人に負荷を与えないよう、素材の安全性を徹底的に吟味したこだわりのつくりだ。そして、同敷地内の小さなカフェを含めると、3台の薪ストーブを設置することに。「薪ストーブは生火に触れる楽しさと、循環可能な社会をめざすという、この建物のコンセプトを同時に実現してくれます。薪を使うことで、少しでも林業を応援したいという気持ちもありました」

そんな森さんに、「災害時に地域の拠点になれるような場所にしたらどうか」という千葉工務店社長・千葉弘幸さんの提案が新しい視点を与えたという。そこで、3台中2台のストーブは調理のできるタイプを選択。敷地内の井戸を活用すれば、ライフラインが止まっても炊き出しが可能だ。実際3・11後の停電時にも暖かく過ごすことができたそうだ。



住宅地になじむ「森の診療所」と小さなカフェ（左）。東洋医学も取り入れた診療には定評があり、遠方から通う患者さんも多い。

また、屋根に搭載された太陽光発電システムによる発電は、不規則な計画停電のさなかでも診療を可能にしてくれた。

今年からは、ただ捨てられ燃やされるだけだった造園屋さんの伐採樹木を引き取り、薪にすることにチャレンジ。チェーンソーや薪割り機を駆使し、小学生の息子さんと共同作業でシーズンに備え積み上げた。

生火に親しむという実感を伴う悦びと、地球や地域に貢献しているというスケールの大きな充足感。薪ストーブのある暮らしが、それら二つを同時に満たしてくれている。

情報はこちら

株千葉工務店

本社 〒343-0825 埼玉県越谷市大成町 6-237 TEL 048-985-7002 <http://www.chiba-arc.co.jp/>



2階吹き抜けからリビング・ダイニングを見下ろす。薪ストーブはJYU TUL (ヨツール) F400。ご主人が3カ月ほど悩んで決めた。

上/リビング・ダイニングの開口部側から玄関・階段方向を見る。右下/奥さんの部屋。北向きでも明るい。左中/スタディコーナーには大きな本棚を造り付けた。左下/珪藻土で仕上げられた壁と無垢の天竜杉の質感がやさしい風合いの寝室。



キッチンの幅を少し狭めること着。使い勝手も「問題ない」と奥
薪ストーブを入れることはご
の希望だった。火を熾す楽しみ
ることながら、エアコンをな
使いたくなかったことから薪ス
ブに辿りついたのだという。「
トブは火を見てボーッととして
れるのいいですね」と嬉しそう
ご主人。

そして、広いキッチンにはマク
オティック(以下、マクロビ)の
教室を開いている奥さまの希望。
クロビとは、肉類や卵、乳製品
いないのが特徴で、自然と生命



右/寝室の吹き抜けに面した障子は、壁に引き込むことができる。中/現場で大工がつくった玄関のニッチ。左上/1階トイレの壁は娘さんがタイルで飾り付け。左下/通気断熱WB-N工法の通気口。通気断熱WB-N工法とは、壁体内に通気層をつくり、四季に応じて温度を調節できる壁体内自然換気システム。



ダイニングは障子を右からウィ
設計社市谷建
工藤一さん。





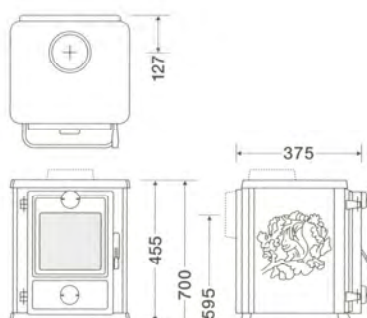
1412CB

1400シリーズはモルソーを代表するロングセラーシリーズの一つです。コンパクトで愛嬌のある容貌であるため、多くのご家庭において一家の中心的存在として位置付けられており、幼少の頃より使われていたという記憶を思い浮かべてしまうようなストーブです。これらのクラシックストーブシリーズは発売当時から今日に至るまでの間、クリーンバーン燃焼技術をはじめとする、燃焼時に発生する有害な微粒や未燃焼ガスを最小限に抑えるための改良が施されてきました。それによって、この1400シリーズは世界で最も厳しいと言われている環境保要件をクリアすると同時に、"ノルディックスワンエコラベル"の認定も与えられています。このような最新技術の採用にも関わらず、製品のデザインに至っては特に大きな変更は加えられておらず、モルソーの象徴である栗鼠とオークの葉のレリーフ模様をあしらったサイドプレートも当時まです。また、省スペースへの設置需要が高いイギリスにおいては"ナローポート"と呼ばれている船幅2メートル程の運河用平底船にも多く読されています。

1412CB



放熱形式		輻射熱式
最小出力		3.0kW(2,580Kcal)
定格出力		5.0kW(4,300Kcal)
最大出力		5.0kW(4,300Kcal)
暖房能力※		45m ² ~75m ²
燃焼効率		74.6%
使用燃料		薪専用
最大新長		28cm
煙突径[上部/後部]		120mm
重量		70kg
材質		・鋳鉄
可燃物からの最低燃焼距離		A:60cm、B:60cm、C:10cm



▼背面出直上げ煙突ジョイント









REVOLUT ACCCLAIM

[レゾリュート・アクレイム]

暖かさが長時間持続するパワフルな中型モデル

ストーブトップの独特なライン（ステップトップ）が、力強さと遊び心を醸し出す中型モデル。あわただしい日常を忘れ、美しく燃えさかる焰や薪が燃える心地よい薫りをゆっくり楽しんでほしい…。そんな思いがこもった「レゾリュート・アクレイム」は、ワンタッチ片開きドアの大きなクリーンガラスが魅力です。

中型でありながら、大型サイズ並みの能力を発揮する優れたパワーは、家全体のメイン暖房として威力を発揮。中型クラスでは最大の重量があるがゆえに蓄熱量が多く、火が消えた後も長時間に渡ってゆっくりと熱を放出します。そんな炉内から伝わる「強い意思、不屈の精神

（＝レゾリュート）に拍手喝采を贈る（＝アクレイム）」というのがネーミングの由来。「アクレイム」の呼び名で親しまれています。

少ない薪で最大限の暖房効率を発揮する鋳物二重構造の炉、非触媒ながらも高い燃焼効率とクリーンな排気を実現する二次燃焼システムは、触媒なしで排気ガス規制をクリアしたバーモントキャストイングス最初のモデル

でもあり、秘めたる個性として輝いています。また、ドアの内側に配備した灰受け皿のお陰で、足周りがすっきりしているのもレゾリュート・アクレイムならではの美しさです。



燃え広がる薪の薫りがもたらす
冬の心地よさ





15年前の同じ部屋。昔もよかった。15年前、この家は、もっと山小屋だった。時代も今よりは素朴だったし、わたしたちも若かった。



この薪ストーブはコンパクトな鋳鉄の暖炉でありカマドだ。暖炉はもともとはキッチンに設えられた西欧人のカマドだった。

サンフランシスコの百年前のビクトリアン・ハウスに滞在したことがある。その家には二〇もの部屋がある。だが、その家の住人はほとんどの時を、広くはないキッチンですごしていた。客人もまたそこにいて、コーヒーを飲んだり、本を読んだり、パスタを食べたりしていた。中世のヨーロッパの城主も、ほとんどの時を城のキッチンですごしていたらしい。当然のことである。キッチンは暖かいし、飲み物も食べ物もキッチンにある。そして、城のキッチンには女たちの明るい笑い声がたえなかった。それが小さなコテージであれ、大きな城であれ、結局、人は多くの時をキッチンですごすのである。大江健三郎さんという作家は、キッチンのテーブルで小説を書いてノーベル賞をもらった。

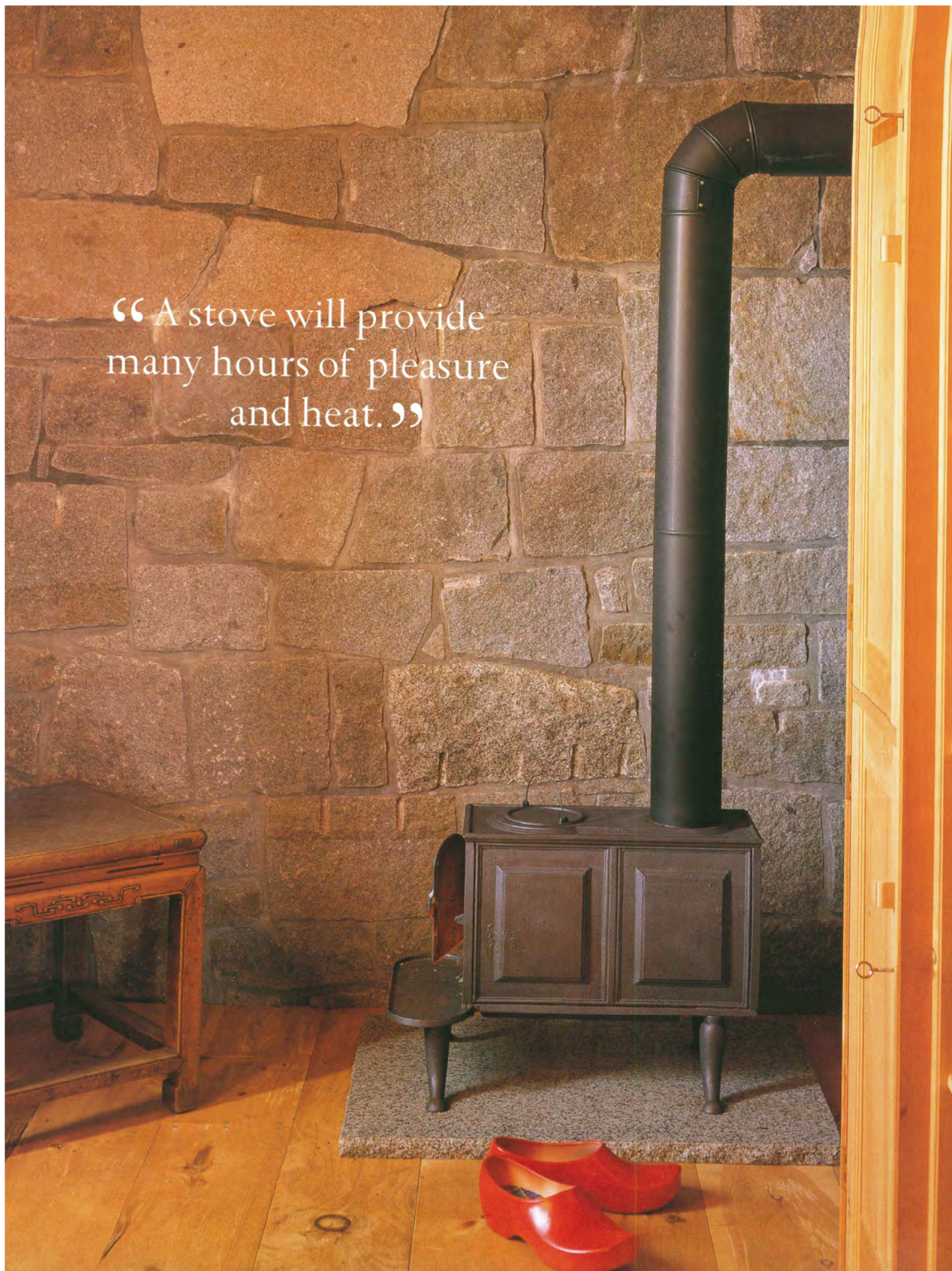
それがどんなに小さな家であれ、アパートであれ、またそれがどんなに大きな屋敷であれ、城であれ、家“で一番大切なものは”キッチン“である。キッチンはその家の中枢であり、その家の全てではないだろうか。楽しくて暖かいキッチンを持つために、人は自分の家を持ち、自分の家を借りる。暖かいキッチンがある限り、人はその家やアパートに帰って行く……。

この世で一番大切なものは、暖かいキッチンなのではないでしょうか？

西暦2000年の我が山小屋の部屋。その後、木工術の腕を上げたのでテーブルと椅子がよかった。にしても、板壁のシンプルな家だ。



“A stove will provide
many hours of pleasure
and heat.”



On Fire

Fire Physics

For an optimum wood fire, there must be a moisture content of about 15 percent to 20 percent in the wood, enough oxygen for sufficient combustion and enough heat to get the process started. Burning kindling evaporates the water and resins in the wood at about 200°F and allows the logs to absorb the heat. As the temperature rises, volatile gases and tar vapor are released from the wood, a reaction called pyrolysis, and when the gases reach the flash point at a temperature of 480°F to 500°F, they will burst into flame.

The volatiles (the gases and tar vapor) burn off just above the surface of the wood, reaching a temperature of 1,100°F to 1,200°F and releasing about a third of the wood's potential energy. If the right amount of oxygen is not present, the temperature won't rise high enough and many of the volatile gases will be released as smoke.

The remaining material is charcoal and contains the other two-thirds of the wood's energy. The combustion of the charcoal takes place right at the surface of the charred wood and appears as an orange or white-hot glow that can reach temperatures of 1,300°F.



PAGE: Two 90-degree elbows are about the limit to the number of twists a stovepipe can take. Too many slow the flow of smoke, increasing the chance for creosote to collect in the flue.

A box stove's stovepipe connects to the chimney via a thimble at the point where the pipe enters the wall, which protects the surrounding framing and acts as a fireproof skirt, creating an air seal.

TIP: An oxygen-rich fire burns faster and keeps the gases moving quickly up the stove and chimney even if the pipe is not completely straight.

from stovepipe, in that chimney pipe must be UL-approved Stainless Steel Class "A" Insulated Chimney material, whereas stovepipe is 24-gauge or 22-gauge metal tubing painted black.

Stovepipe is sold in sections of various diameters—the most common being 6 in. and 8 in.—and lengths in straight and bent sections. The sections are fastened with sheet metal screws and sealed with black furnace cement. The straightest configuration from the firebox to the chimney pipe will give you the best upward draft.

STOVEPIPE CONFIGURATIONS — You can extract even more heat from your stove if you extend the length of stovepipe within your home so that heat can radiate out of the surface of the pipe itself. However, too many twists and turns slow down the passage of the hot gases, cooling the smoke and creating the potential for creosote to form inside the chimney pipe.

Both single-wall stovepipe and double-wall stovepipe, which has an insulating air space between the outer and inner layers, are available.



Fire Places



The insulating space of a double-wall stovepipe keeps the smoke hotter as it vents, thus improving the draft, or draw. The tradeoff is that with a double-wall stovepipe less heat radiates into the room.

The thimble

Stovepipe should not penetrate a wall, ceiling, or floor without protection against fire. If the stovepipe passes through a stud wall to reach the chimney, a special device called a thimble must be used. A thimble is an insulated sleeve that will protect the surrounding materials. When installed there should be at least a 4-in. gap all the way around the thimble in which to stuff rock wool, a mineral-based insulation material.

Installing a veneer of brick or stone on drywall isn't enough to protect the wall from scorching. Any kind of heat shield or wall protection must avoid too much heat transfer to combustible wood and drywall underneath. The wall will catch fire unless there is sufficient air circulation or insulation between it and the heat shield—an inch or so behind the masonry veneer will do. Sheet metal has good thermal conductivity so it disperses the heat quickly, but must also be mounted about an inch from the wall.

RETROFITTING A FIREPLACE FOR A WOODSTOVE

By the mid-1800s, the cast iron stove replaced the open fireplace as a source for heat. Even now it makes practical sense to retrofit a smoky, inefficient, and drafty fireplace into a receptacle for a heat-producing, economical stove. The new stove sits on the existing hearth, and the stovepipe is connected to the chimney flue in one of three ways. If the stove is small enough to sit within the firebox the stovepipe can exit the stove out its top and go directly up through the fireplace's throat. If the stove sits in front of the fireplace there are two options: The stovepipe can go back into the firebox through the bricked-up fireplace opening or it can connect to the existing flue above the fireplace throat straight through the chimneybreast.

In some cases the existing ceramic flue may be damaged and so poses the threat of a chimney fire. Also, gases may escape into the house. In this case, the flue must be relined with metal for the new stove.

Fireplace inserts

A fireplace insert operates like a stove in that it consists of a fully enclosed firebox with an adjustable



ABOVE: A masonry heat shield and insulated hearth like this faux stone arrangement is a deterrent for fire and also protects the fireplace framing and floor from intense heat.

damper and an air-flow regulator to control the amount of oxygen reaching the burn chamber. The insert is an add-on device placed in the mouth of the fireplace opening. It has shields around the top and sides that fit tightly against the face of the existing surround. These make an air-tight seal that prevents any room air from being sucked into the burn chamber, so the oxygen needed to feed the flames is drawn from outdoors or under the floor. The face of the insert can be flush with the surround or can extend as much as 6 in. into the room.

Insert units have doors, often glass, that prevent the room's heat from escaping up the chimney when there is no fire burning. Some also have fans that increase heat distribution, pushing more heated air into the room and less up the chimney.

FINDING THE RIGHT INSERT — You'll never see some of the working parts of a fireplace insert,

LEFT: Blocking up an unused fireplace is an opportunity to display decorative tile backdrops for a new woodstove, combining the features of both.

